

平成29年度糸島市地域力強化推進事業

団体等ヒアリング調査報告書

平成30年3月31日提出

社会福祉法人糸島市社会福祉協議会

NPO・ボランティア・福祉団体ヒアリング調査
(我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業)

1 対象地区 糸島市全域

2 調査対象

(1) 福祉団体・当事者団体 11 団体

	団体名	日程	代表者
1	糸島市身体障害者福祉協会	1/12(金)11 時	福島 春夫
2	糸島市食生活改善推進会	1/12(金)13 時	吉川 隆子
3	糸島市シニアクラブ連合会	1/12(金)15 時	兵庫 金作
4	糸島市手をつなぐ親の会	1/18(木)14 時	樗木 美鈴
5	糸島市民生委員児童委員協議会 (前原・二丈・志摩)	2/2(金)15 時	山下 喜暉
6	在宅介護者の会癒しの会	3/13(火)10 時	末崎 カヨ子
7	在宅介護者の会楽笑	3/13(火)10 時	瀬戸 好子
8	在宅介護者の会あすなろ会	3/13(火)10 時	安永 正人
9	糸島保護区 保護司会	3/15(木)13 時	瀬戸 利三
10	糸島市母子等寡婦福祉会	3/24(土)15 時	桜木 智恵美
11	福祉委員会	3/30(金)13 時 30 分	福嶋 正代

(2) 糸島市社会福祉協議会ボランティア連絡協議会 32 団体

	部会	団体名	日程	代表者	主な活動内容
1	高齢者部会	ピュアの会	10/5(木)15 時 30 分	凌 朋香	施設訪問 セラピューティック・ケア
2		ボランティアグループ志摩の輪	10/5(木)14 時	猿渡 勇	福祉施設支援・高齢者見守り

3		セラピューティックケアハーモニー	10/5(木)15 時	猿渡 スミエ	福祉施設・地域サロン セラピューティック・ケア
4		ジネスボランティア	10/11(水)14 時	岡 三恵子	福祉施設・地域サロン 化粧
5		キューティースマイル	10/26(木)11 時 30 分	有田 豊子	地域サロンレクリエーション指導
6		はつらつマイスターズ	10/26(木)14 時	原田 ツル子	地域サロン支援 介護・閉じこもり予防
7		糸島在宅ホスピスボランティアの会ヴィオラ	10/26(木)15 時	古賀 照枝	糸島在宅ホスピスボランティア
8		ボランティアはるか	11/1(水)9 時	谷口 範子	地域サロン支援 介護予防体操
9		ひまわりの会	11/1(水)10 時	前田 早苗	施設訪問 ゲームの提供
10		白菊学級	11/1(水)12 時	浦山 美和子	施設訪問 掃除や話し相手
11		いとのか	11/8(水)11 時	中原 信恵	地域サロン支援
12		福寿の会	11/8(水)14 時	上田 登美子	施設訪問 衣類補正
13		ふる里	11/21(火)14 時	星乃 幸子	施設訪問 歌の時間の支援
14		リボンの会	11/21(火)14 時	中村 玲子	施設訪問 掃除
15		回想法ボランティアつんの一て	11/24(金)15 時	高鍋 健児	地域サロン訪問（昔の話をする機会）
16	障がい者部会	要約筆記の会 いとしま	10/6(金)10 時 30 分	室岡 登望子	聴覚障がい者へ文字で情報伝達
17		糸島防災士会てまがえ隊	10/19(木)19 時 30 分	有松 智文	防災訓練、防災講座の開催
18		朗読ボランティアあめんぼ	10/26(木)10 時	鶴田 政子	社協ニュースを録音し視覚障がい者へ
19		火よう会	10/26(木)13 時	濱地ミツエ	エプロン他縫い物・デイサービス外出支援

20		二丈菜の花会	10/26(木)16 時	中原 奈津子	聴覚障がい者との情報交換、交流
21		糸島手話の会	10/26(木)16 時 30 分	友池 はすみ	聴覚障がい者との交流・手話通訳・講習
22		朗読ボランティアせせらぎ	11/8(水)10 時	桑原 みどり	広報を録音し視覚障がい者へ
23		認定 NPO 法人九州補助犬協会	1/31(水)15 時	桜井 恭子	介助犬の育成啓発・セラピー犬活動
24	子ども部会	おもちゃ病院 伊都国	10/26(木)9 時	波多江 保彦	おもちゃの修理体験
25		いとしまの遊び場たい！	11/8(水)9 時	加茂 晶子	あごら野外での遊び場の開催
26		おもちゃ図書館 いとっ子	11/8(水)13 時	水ノ江 智津子	あごら館内おもちゃ貸出・制作
27		つみき文庫	11/8(水)16 時	波多江久美子	お話会、本の整理
28		にこにこ文庫	11/16(木)19 時	仲西 まゆみ	読書推進活動、本の整理、勉強会
29		食育の会 ホーレン草	11/21(火)11 時	松尾 愛子	高齢者おやつ作り支援・子ども料理教室
30		たけのこ文庫	11/24(金)16 時	吉田 育子	図書貸し出し、お話会
31		布絵本の会 こびとのくつや	11/24(金)16 時	中田 智佐恵	布絵本の製作、貸出、育児サークル支援
32		せんだん文庫	3/16(金)16 時 30 分	笠 靖子	図書貸し出し、お話会

3 調査方法 ヒアリングによる調査

4 調査場所 あごら、二丈苑、ふれあい

5 調査期間 平成 29 年 10 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日まで

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	糸島市身体障害者福祉協会		代表者	福島 春夫
2	種別	福祉団体			
3	活動分野	障がい者福祉			
4	会員数	会員数 【 530 名 】 80%は 70～80 代 毎年 1 割減、新会員はめったにない			
5	性別構成	半々 理事 10 名≒支部長			
6	活動内容	・年間行事と市・社協行事 障がい者会員同士の健康増進と交流の輪を一層深める為、懇談会・グランドゴルフ大会・研修旅行・社協や市が開催する行事等に積極的参加！！ ・支部で活動するのは支部総会（波多江支部は文化祭でバザーをしている） ・ふれあいカーニバル（糸島市内の障がい者施設が一同に集まって行う運動会）には全体で参加			
7	実績・評価	・平成 29 年度、新体制に移り、今まで以上の年間活動が達成され、より以上の収穫があったと感じている。 ・昨年の活動は内外から好評化、理事（校区）から担当振り分け、責任感のある事を任せたとところ良かった（※バス研修や文化面など）数名を選び（校区から 1 名）重くない負担なら担ってくれる。 ・タイムズに顔写真と文が載ることで本人がやりがいを感じ、周囲からのリアクションある。			
8	力を入れている事	・健康増進の為と交流の輪、今まで以上の積極的参加呼びかけでスポーツレクレーション、イベント等かなりの成果が見られる。 ・本年度もネットワークの構築を大切に、役割を振り分けて活動に張り合いを ・理事で検討し担当を決めることで出席率上がった ・楽しく意見交換しながらやっていく ・若い世代との接点がない。強制できないから活動も制限される			
9	活動上の問題点及び課題	・課題は高齢化ですが、役員会等において、色んな意見を集約して担当者会議等を取り入れ、皆それなりに前向きに行動しているので今のところベストではなかろうかと思う ・個人情報の関係で新会員加入無い・広報は各公民館、市（社協）、会員のみ ・支部長が次の世代へのバトンタッチが難しい ・若い世代との接点がない。強制できないから活動も制限される			
10	問題解決策	・比較対象しながら、改善して行動中、役員会等において解決する姿勢。 ・糸島市役所福祉支援課に手帳取得時に案内してもらうことにした ・その人が出来る事を任せて、その役割をたたえることでその人も嬉しいという ・目配り、気配りをリーダーとして意識している。過度な負担かけない、傷付けない			
11	将来像	・各支部のリーダーの若返りをどのように一つ一つの問題点を皆で共有し乍、前進あるのみ。そのためには絶対的、コミュニケーション第一に！！ ・これ以上活動増やさない（現在年間 10 件）・これ以上人数が増えると支部負担増えるから現状維持したい・次の支部長を担うという話もしすぎると“やめた方がいい？”と思われる・（スモールステップで）今年一つできたら、次はもう一つというようにその人の人となりまで考え、少しずつ責任持たせる。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	糸島市食生活改善推進会	代表者	吉川 隆子
2	種別	福祉団体		
3	活動分野	高齢者福祉 母子・子ども福祉		
4	会員数	会員数 【 234 名 】 ※県には所属しない		
5	性別構成	ほぼ女性 志摩は実質の会員が不明		
6	活動内容	・はつらつ館でのいとゴン食堂の運営 （実際は別事業として活動）介護高齢者支援課とのつながり ・サロン支援・校区社協支援・イベント協力→役員会で事業への人員等調整 ・健康講座を受講した後に活動→人に提供するという視点で作り慣れない会員へ会長の指導がいる ・食生活改善の研究、改善をしてサロンで指導		
7	実績・評価	・いとゴン食堂では野菜を多く使ったメニューをだし、利用者からは好評（月・木） ・家での食事が変わってきたという会員の声あり、自分たちの食生活がまず整うことが大事 ・男性料理・栄養講座・糖尿病予防講座など健康づくり課へ協力 ・公民館から依頼でクッキング教室実施する→伝達講習ののちに校区で市民向けに事業してほしいと会長は思うが自主的に企画はなかなか出来ない。		
8	力を入れている事	・サロン活動などでも、高齢者に配慮したメニューを考案するのが大変 ・支部で自主事業を実施＋他機関への協力 ・富の里の生きがいデイでの食事の提供もしている。 ・高齢者の場合、より美味しく栄養があり、健康でいられるように作り提供すること ・サロンでは調理指導（実習）・健康づくり支援事業・男性料理支援		
9	活動上の問題点及び課題	・会員高齢化。 ・3支部の研修をしているが、それを市や社協が後押ししてほしい。 ・二丈など、スムーズにいとゴン食堂などでも取り組めない。代表者の指導が必要。 “支部ではない、会長が（吉川さん）するなら” という受け身な姿勢 ・会長になっても会議にすら出ないという支部もある ・活動費は会員一人当たり 800 円位にしかない。少ない。 ・事務が大変。		
10	問題解決策	・会員の人数割で支部への活動費を渡しているが、1回も活動してないところに渡すと言う事の見直し必要。活動内容の充実、活動を担える会員に育てる事を支部にも求めている。 ・若い会員を増やしたい。		
11	将来像	・地域で要請を受けて、会員が出来る事を活かして活動が活性化してほしい。 ・現役で働く人が増える中、いかに会員を獲得していくか。 ・会員を増やすのが難しくても現状維持したい。会員は減少しつつある。 ・地域との関係性が出来て、支部ごとの活躍の場が増える。 ・高齢者が閉じこもりを防ぐ通いの場としてのいとゴン食堂も捉えている。 ・サロンや栄養講座やクッキング教室の手伝い（サロン、公民館などからの依頼）がもっと広がり、それが市民の方の健康や喜びにつながる。地域に元気を与えたい。		

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	糸島市シニアクラブ連合会		代表者	兵庫 金作（回答は事務局 近藤）
2	種別	福祉団体			
3	活動分野	高齢者福祉			
4	会員数	会員数 【 5,836 名 】（高齢者人口 27,547 名）男性 2,491 名 女性 3,345 名			
5	性別構成	男性 42.6% 女性 57.3%			
6	活動内容	・糸島市シニアクラブ連合会ではシニアクラブ全体の行事を少なくして、単位クラブ（行政区）の活動を中心にしており他の市町村とは少し違いがあります。 ・活動を通した各自の健康維持、他会員への健康等に関する助言。 ・地域環境、美化への奉仕作業・サークル活動（趣味の会）の助成。 ・会員増強、後継者育成を含めた仲間づくり活動・子ども、社会的弱者等の見守り活動。			
7	実績・評価	・市シニア連糸島市シニアクラブ連合会では校区の代表者で構成している理事会において活動の活発化を要請しているが校区、また、行政区で構成している単位クラブの活動にはバラつきがあり問題点も含んでいる。（120 サークルある） ・評価については地域の皆さんでしていただく事だが、クラブの存在、活動内容等認識が無い地域住民もいる。			
8	力を入れている事	・市民の皆さん方のクラブに対する認識が薄いことを踏まえ、平成 27 年度より名称を「仲間づくり」運動として活動やクラブの存在意義等の PR 活動の取り組みに焦点を当てている。また、連絡など事務処理はスピード感を心掛けている。			
9	活動上の問題点及び課題	・今全国のシニアクラブでは会員の減少に頭を抱えています。無論我がクラブも同じことが言えます。面倒な事には関わりたくない。ましてや役員などやりたくない、自分の事だけ、自分さえ良ければと考える人が多くなっているとも考えています。無論クラブの PR も大事ですが、我々クラブ所属者自身の意識を変えていくことも必要と考えます。			
10	問題解決策	・問題解決に魔法はないと考えます。地域の組織ですから所詮品人間関係が基本と考えます。シニアクラブを「人的資産」つまり多くの知恵があり多くの情報を持つ「シンクタンク」と捉え、社協を含めた行政からの支援、助言を受ける。市長行政幹部職員、地域にあつては区長等の皆さん方からシニアクラブの必要性の訴えかけ、地域に協力し高齢者の生きがいづくりの場をつくっていく。奉仕ばかりでは無く楽しむ事、あくまでも自分のペースで取り組める事等、それぞれの立場の方々からの未加入者、若い人達への声だし声かけが必要と考えます。 ・民生委員・区長だけでなくシニアも活用して欲しい・旗たち当番			
11	将来像	・地域のシニアクラブはやすらぎの場であり、情報交換の場であり、支援要請も出来る場であると考えます。シニアクラブの会員としてサークル活動に取り組んでいる人、農業や社会勤めをしている人も地域に帰れば仲間がいる。家庭と地域に根付いたシニアクラブになればと考えています。また「健康は地域貢献」の一つだとの考えも必要ではないでしょうか。 ・まちづくり…協議会に加盟			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	糸島市手をつなぐ親の会		代表者	樗木 美鈴
2	種別	福祉団体			
3	活動分野	障がい者福祉			
4	会員数	会員数 【 266 名 】			
5	性別構成	ほぼ女性			
6	活動内容	・子ども達が生きがいのある生活をするために、行政へ呼びかけ、学習会、研修会、関係団体等の研修会への参加・子ども達が幸せになるための活動。 ・会員相互の交流会。 ・一般社会の理解を深める為の活動。			
7	実績・評価	・特別支援学校設立の件の要望が議会で採択され、8年後までに糸島に特別支援学校が設立される。			
8	力を入れている事	・若い会員さんの入会と会員相互間の交流。 ・民生委員さん等との懇談会で知ってもらうことが必要。			
9	活動上の問題点及び課題	・働いている保護者が多いので、平日の行事への参加が少ない。 (施設見学とか、必要な時は参加されるが…) ・休日にしても参加が少ない、情報が伝わっていないのではないかと感じる。 ・若い保護者の方との交流会を開いても参加者が少ない。 ・入会はされても活動の参加が少ない。			
10	問題解決策	・なるべく若い保護者の方が参加してくれそうな活動を行って参加してもらうようにはしているが、なかなか解決にはなっていない現状がある。 ・周知の方法として、特別支援学級の先生との懇談会はどうだろうか。			
11	将来像	・障がいのある人達が、地域の中でよりよく生活が出来るように、保護者として自分たちが、何が出来るかしっかり教えて、子ども達を責任を持って育てて、自分たちがいなくなっても少しでも子どもが生きていけるように親としての義務を果たすことと、きちんとした親亡き後託せる施設が出来る事です。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	糸島市民生委員児童委員協議会 (前原・二丈・志摩)		代表者	会長 山下喜暉(前原) 副会長 吉村シゲ子(二丈) 副会長 小金丸康文(志摩)
2	種別	福祉団体			
3	活動分野	高齢者福祉 障がい者福祉 母子・子ども福祉 生活困窮者、行政との連携			
4	会員数	会員数 【 167 名 】			
5	性別構成	半々(やや女性が多め)			
6	活動内容	・一人暮らし高齢者見守り、登下校見守り、障がい者の見守り。 ・生活困窮者支援。関係機関につなぐ。 ・校区社協への協力。 ・幼稚園、保育園行事への参加。 ・相談の受付。			
7	実績・評価	・要援護者台帳の再調査を完了させた。 ・生活保護受給から就職までの支援に関係機関とともに伴走支援を行う。			
8	力を入れている事	・毎月定例会での研修。 ・認知症カフェ。 ・守秘義務の徹底。 ・行政区長との交流。			
9	活動上の問題点及び課題	・任期途中で辞める方がいる。欠員がいる。 ・1期のみの方が多いため、役員づくりが厳しい。 ・マンション(集合住宅)への訪問。 ・行政区に入っていないという課題。 ・活動費が少ない。			
10	問題解決策	・民生委員の仕事の軽減化。 ・1期(3年)でやめてしまう方が多いため、続けていただくようお願いする。			
11	将来像	委員の男女の割合を半々くらいにしてほしい。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	在宅介護者の会 (癒しの会・楽笑・あすなろ会)	代表者	瀬戸 利三（回答は甘蔗）
2	種別	福祉団体		
3	活動分野	高齢者福祉		
4	会員数	会員数 【癒しの会 19 名・楽笑 22 名・あすなろ会 34 名】		
5	性別構成			
6	活動内容	・在宅介護をする上での苦労話をしている。 ・リフレッシュバスハイク。 ・研修会の開催、民生委員児童委員協議会との懇談。 ・ストレス解消。		
7	実績・評価	・社会福祉大会、表彰、介護に対する悩み相談。		
8	力を入れている事	・会員の癒しになるように活動が続けている。		
9	活動上の問題点及び課題	・会員の高齢化 ・交通手段（施設見学など） ・団体としての周知不足		
10	問題解決策	・新規会員の獲得 ・会の PR		
11	将来像	・現状維持で、在宅介護をされてある方々の受け皿であり続ける		

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	糸島保護区 保護司会		代表者	瀬戸 利三（回答は甘蔗）
2	種別	福祉団体			
3	活動分野	保護観察者・環境調整			
4	会員数	会員数 【 41 名 】			
5	性別構成	ほぼ男性			
6	活動内容	・保護観察中の方に対する支援。 ・社会を明るくする運動。 ・強調月間中のチラシ配布。			
7	実績・評価	・保護司の活動が知られてきたこと。			
8	力を入れている事	・保護司候補者検討協議会。 ・市内で保護司の候補者を探す事。			
9	活動上の問題点及び課題	・会員の減少（75歳上限）高齢化、仕事が重い。 ・対象者の自宅の近くの保護司が担当となるので、偏りがある。 ・66歳以上の方は新規に保護司になれない。女性が少ない。 ・嘱託の条件が厳しいボランティアである。交通違反などの軽微な罪があるとなれないため。			
10	問題解決策	・周知を広め、保護司になる方を募る。			
11	将来像	・定数の確保。（糸島の定数は48名） ・PRをする。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	糸島市母子等寡婦福祉会		代表者	桜木 智恵美
2	種別	福祉団体			
3	活動分野	母子・子ども福祉			
4	会員数	会員数 【 48 名】			
5	性別構成	すべて女性			
6	活動内容	・母子父子家庭と寡婦の皆さんの生活と福祉を守る為に活動している団体です。児童扶養手当やひとり親医療といった様々な社会福祉制度発展に寄与できるよう組織一丸となって福祉の向上に取り組んでいます。			
7	実績・評価	・児童扶養手当の維持が出来ており、県からの委託事務などで、「就業支援サービス」や「就業支援講習会」の実施。また、最近では小学校～高校生対象の「学習支援」を展開している。			
8	力を入れている事	・「学習支援」は貧困で塾に行けない子どもが対象で、「内容の充実」を見直し、レベルアップを目指したい。			
9	活動上の問題点及び課題	・学習支援終了時、お迎えに来られない親御さんがいらっしゃるの、困る場合がある。 ・学習の方針が各先生により意見の相違があり、まとまらないことがある。			
10	問題解決策	・学習支援終了したら、自宅に電話をする。 ・目的を明確にし、それに添った方針を提示する必要がある。			
11	将来像	・戦後、「未亡人代表者協議会」として設立後、20年後に社会福祉法人の認可を受け、現在に至るが、年々会員数は減少傾向で、体力が低下している。若年層の会員獲得の為、団体の意義や名前を理解してもらえる機会を多く展開していきたい。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	福祉委員会		代表者	福嶋 正代
2	種別	福祉団体			
3	活動分野	高齢者福祉・障がい者福祉・母子・子ども福祉全般			
4	会員数	会員数 【 175 名 】			
5	性別構成	ほぼ女性			
6	活動内容	・校区社会福祉協議会への事業参加。 ・総会、高齢者見守り事業、一人暮らし高齢者ふれあいの会、行政区長・民生委員児童委員・福祉委員合同研修を年 11 回、民生委員児童委員と福祉委員合同研修を年 3 回、すまいる広場を年 11 回、ふれあい生きいきサロン、福祉委員研修年 2 回、ぬくもり文化祭において、おでん販売（前原校区の活動状況を記述） ・民生委員児童委員の活動への協力。 ・福祉委員会の活動・研修。 ・地域ささえあいサポーター養成研修の参加。 ・民生委員児童委員と福祉委員交流会に年 3 回参加。（可也校区）			
7	実績・評価	・一人暮らしふれあいの会では、行政区長や民生委員児童委員等と協働 ・一貴山校区のお楽しみ会出席者全員に、手作りの品（H29 年はティッシュカバー）を 1 年間かけて作り、配った。（毎月 1 回は福祉委員で集まり、作成）			
8	力を入れている事	・毎月 1 回研修会・手作り品作り。（一貴山校区） ・すべて力をいれているが、福祉委員のみの研修を必ず行うよう努めている。また、ぬくもり文化祭では福祉委員がおでんを販売することが定着してきているので、今後も力を入れたい。（前原校区）			
9	活動上の問題点及び課題	・活動に個人差がある。また、任期が 2 年間で短いので仕事内容を十分理解できないまま、代交代してしまっている。1 年で交代してしまう地域もあるため、制度がうまくいっていないのではないかと感じる部分が多い。（可也校区） ・他校区の委員との交流がないので、情報交換ができない。 ・福祉委員自身も、地域の行政区長などの役員も福祉委員の役割が浸透していない地域があり、意識が低い。 ・民生委員児童委員や、校区社協より、福祉委員に対して役割を振ってもらおうと活動しやすい。特に二丈地区や志摩地区など、福祉委員制度ができて日が浅い地域では、役割が確立しておらず、もっと言ってほしい。福祉委員としてではなく、サポーターとして活動することが多い。 ・福祉委員は仕事をしている人が多いので、選任のときに考えてもらいたい。			

10	問題解決策	・状況により働いている人もいるが、参加できる場所では協力してもらう。 ・福祉委員の研修会で座る場所を 3 地区で分けて、自分の地区の他の福祉委員が分かるようにする。 ・市全体で研修会を行い、糸島市全体で活動状況の連絡会などを行い、よその地域でいいところは参考にする。
11	将来像	・現在の活動を続けること。今後は、地域に対して委員活動の理解を深め、協力してもらいたい。 ・まちづくりへの協力。

12	要望（行政・社協への要望について） （公的分野でどう団体支援をして欲しいか。なにか要望があれば忌憚なく言ってください） 【行政】 ・行政との懇談会、交流会。介護予防事業にお金を使ってほしい。予防注射に助成など。[糸島市民生委員児童委員協議会] ・楽しく活動していることが分かる PR をする。助成金（補助）が減るのは困る。[糸島市身体障害者福祉協会] ・安心して子どもたちを預ける事ができる施設・場所を作ってほしい [糸島市手をつなぐ親の会] ・健康づくり課の方で、総会資料等事務的な事を裏方で支えてほしい。研修で基礎的な事を知ることができる機会を作ってほしい。いとゴン食堂の駐車場問題の解消。（いとゴン食堂行きコミュニティバスのような）食生活に対しては、食進会を活用してほしい。地域の中での活動は食進会を利用してほしい。[糸島市食生活改善推進会] ・私達組織の意識も変わらなければと思っていますが、依然として動員要因との考えが根底にあるのではと疑問を持つ場面もあります。現在改革に取り組んでいます、行政や社協の皆さん方に必要な組織だとの認識を持っていただき、シニアクラブへ支援要請をもっとして戴きたい。もっとお手伝いをさせていただきたい。福祉関係以外の事でもおおいに声を掛けていただければと考えます。（横の繋がり…社協や役所が支援の手伝い）[糸島市シニアクラブ連合会] ・定数確保のための支援。担当課、人権政策課、お願いすれば広報等の協力 OK [糸島保護区 保護司会] ・団体 PR をもっとしてほしい [在宅介護者の会] ・公民館や区長も協力してくれています。[前原校区福祉委員] 【社協】 ・事業、会議が多すぎる。新しく始まるものが多い。仕事量の見直し。[糸島市民生委員児童委員協議会] ・“意識”づくりの支援をしてほしい。見守ってほしい。自主性を持ってしているので…[身体障害者福祉協会] ・兄弟児のつどい→こじんまりしすぎ？もっとパツとした大きなイベント等があれば…[糸島市手をつなぐ親の会] ・地域密着型の「それいゆ」のような施設を増やしてほしい。開かれて暖かい雰囲気通りの場がもっと欲しい。そこで食進会が決まった日に食事提供したい。長年の経験がある職員でないと社協では努めていけない。変わっていい部署とそうでない部署がある。 決まっている行事はとにかく早めに知らせしてほしい。[糸島市食生活改善推進会] ・色々と便宜を図っていただいているので感謝しています [糸島市母子等寡婦福祉会] ・交流会の開催をしてほしい。代表となつてはいるが、他の校区の活動状況を知る機会がない。[福祉委員会] ・難しいとは思いますが、福祉委員は総会 1 回だけですが、3 地区の会長さんたちとの研修会などを行い、コミュニケーションが必要だと考えます。たとえば、福祉委員の総会では座る場所を 3 地区で分けて、自分の地区の他の福祉委員が分かるようにしてほしい。[福祉委員会]
----	---

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

13	地域共生社会について（知っていますか。目指していくために何が大切だと思いますか。など） ・助け合いの団体等が大切。認知症カフェ。[糸島市民生委員児童委員協議会] ・障がい者団体は昨年施行された。障がい者差別解消法等、世の中に知られるようになり、また、人権同和教育とのネットワークの構築等、確実に進化していると思う。小学校～高校生まで、教育等においても取り入れが進んでいて少しずつ良くなってきていると思います。 賛助会員制（協力したい人）を取っていて活動を一緒にしている。 意識の共有化…地域の団体が顔合わせつながる→1つの地域行事にそれぞれの役割で関わる多団体が横のつながりをつくる。ターゲットを絞って、多様な立場の人が話すときには、テーマを統一して共通のものをみて話すとしやすい。[糸島市身体障害者福祉協会] ・私たちの子どもは一人で生きていけないので、周りの方々に手を貸してもらって生きていかなければいけません。少しでも障がいを知ってもらい、一人一人違った接し方なので理解してもらえないと思っています。一人一人の個性と思って共に生きていけたらいいと思っています。 とにかく手を借りないと生きられないという事を理解してほしい。支え合うためにもまず理解する。 [糸島市手をつなぐ親の会] ・サロン活動にサロンメニューなどを広げていく [糸島市食生活改善推進会] ・まさにこの考え方の支援の中心にシニアクラブがいるべきと考えます。お互い力を出し合って、心合わせて生きていく「楽しく愉快的な人生の為に」そんな想いです。[糸島市シニアクラブ連合会] ・安心安全のまちづくりが大事だと思う。他の福祉団体と一緒に活動していきたい。 ・コミュニケーションが大切。小さなコミュニティが多くできて、それが大きくなれば隣、近所との付き合い [在宅介護者の会] ・社会保障や産業など縦割りの領域を超えてつなげていく為に必要となる事は、人々の多様なニーズに応えると同時に、資源の有効活用や地域社会の双方を支えていけるようになる [糸島市母子寡婦等福祉協会] ・「ニッポン一億総活躍プラン」や福祉サービスを「縦割り」から「丸ごと」へ転換する、地域包括システム、などを住民に知ってもらうことが必要。[福祉委員会]
----	--

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

14	多様な団体同士の連携した取り組みについて（必要だと思いますか。連携するためには、どのようにしたら良いですか。） ・必要だと思う。校区社協、学校、シニアクラブ、寺と既に連携している。（登下校時の見守り・清掃活動・青パト・そうめんちり等作って一緒に食べる）[糸島市民生委員児童委員協議会] ・私の校区では昨年初めて、校区社協、人権同和教育推進協議会、身障協支部役員 20 人と公民館を入れて合同懇談会を開催し、各自、各部会意見発表をし、意識の共有にかなりの成果が表れた。開催して良かったと思う。何事においてもネットワークは息長く。ネットワークを作る（多団体）お互いを知ることが大切。中に入ってアドバイスはしない。できる事、できないことはそれぞれ違うから。それぞれの活動を知らないという福祉関係団体同士の関係性も変わっていく必要がある。「社会福祉大会」は福祉活動について知れた。そこに参加したという事が素晴らしい。[身体障害者福祉協会] ・自分たちの団体がどういうものか伝える機会として色々な団体が集まり、場所を作ってもらったらいと思います。社協の福祉大会の時にそういう発表をすることをしてもらいたいかもしれない。自分たちもなるべく色々な集まりの中で連携できるように積極的にそういう場所に出かけて一緒に取り組めることは行っていきたい。 精神、身体障がいの団体と交流会なども行っている。民生委員さんとの交流会は定期的に行っているため顔見知りも多く、活動の幅が広がった。[糸島市手をつなぐ親の会] ・地域によって差があるので難しい。食事を作る活動なので、他の団体とのコラボが難しい。早めにスケジュール出してくれれば、協力できる。意図的にコラボする機会を作ってくれれば関わりを増やせる [糸島市食生活改善推進会] ・この事はぜひとも必要と考えます。いま市シニア連では私共の事業に関連して意見交換をしている団体があります。（グランドゴルフ協会と意見交換会）現在は少人数ですが何れは理事の皆さん方にも参加要請を計画しております。興味があればどちらの組織にも入会し催しの開催等の PR、支援要請もお互いに仲間として声かけが出来るのではないかと考えます。[糸島市シニアクラブ連合会] ・必要。周知と、情報の収集のための校区社協との連携。民協との連携。施設との連携 [在宅介護者の会] ・災害等あった時に、様々な団体や個々の知恵など必要となり、細かいニーズに対応できる体制作りの為、連携は欠かせないと思う。「地域コーディネーター」を活用し、中間支援組織として、支援してほしい [母子等寡婦福祉会] ・支え手・受け手が単に固定しているのではなく、皆が役割をもち、支えあいながら自分らしく活躍できる地域社会を創るには、地域性を生かすことが必要。地域生活課題も地域ごとに違うから。[福祉委員会]
----	---

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

15	市民活動・地域コミュニティの活性化について
	・地域の色々な会に民生委員も入っていく。これも一つの活性化では？ 若い人は仕事、子育てなどもあるし、なるだけで精一杯では？このような人でもやれるような仕事量ならばいいが… [糸島市民生委員児童委員協議会] ・他の団体の活動内容は分かりませんが、身障協としては確実に認知、共有感じます。身障協役員、会員楽しみながら精進していくつもりですし、頑張っって一般の方と共に福祉の向上に向けて汗を流す。 5S5P…人権、障がい、社協など、福祉の団体方向性同じ。子どもから意識が持てていることで、認知度が高まっている。障がいは障がいだけとせず、トータルで考える事で、地域でも特別視されなくなっている。→社協等の種まきの成果。[糸島市身体障害者福祉協会] ・障がいがあっても、なくてもどこに行っても（連れて行っても）違和感なく受け入れられる（参加できる）事が当たり前のようになり、そんな場所、地域、糸島市であってほしい。[糸島市手をつなぐ親の会] ・公民館の協力により、公民館事業への参加。志摩は交通の面が不便なので。外部からいとゴン食堂に来てくれることで活動のPRにもつながっている。[糸島市食生活改善推進会] ・⑬.⑭と関連する問題と考えます。一部団体の活発化は有り得ない問題と考えます。人それぞれの考えがあり団体が多い少ないの問題ではないと思います。唯一つ言えるのは似たような組織を行政は造るべきでは無い。現場で戸惑う声も良く聞かれます。分かりやすい組織作りを願っています。[糸島市シニアクラブ連合会] ・周知、PR が大事。一人でも二人でも知ってもらうことが大事。[在宅介護の会] ・地域では今、高齢化やご近所付き合いが無くなってきており、また、地域に関心を持つ人や地域の活動に参加する人が少なくなっている。地域コミュニティを活性化させる為には、地域活動をもっと活発にすることで、地域の顔見知りの関係を広げること必要。[母子等寡婦福祉会] ・一方的に伝えず意見を交換する。“提案したことは自分でしてもらおう”というやり取りで、三役で抱え込まず、かつ現実的な意見に絞った。 ・“皆で”、“お金をちょっとでも使って”何か配るとか、懇談会等をするようアドバイス。 ・支部長など交代の時期は体調悪くなった時、会長から、福祉部長が実質のリーダーとなることや、いざという時は自分がフォローすると言う事を伝えバックアップ。 ・リーダーは“パッション” “アクティブ” “ポジティブ” が必要 [糸島市身体障害者福祉協会]

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	ピュアの会		代表者	凌 朋香
2	種別	NPO・ボランティア団体			
3	活動分野	高齢者福祉			
4	会員数	会員数 【 19 名 】			
5	性別構成	すべて女性			
6	活動内容	・施設においてセラピーティックケアマッサージ。（各、月1回ずつ） ・癒しのマッサージ。 （痛くない、服を着たまま、リンパマッサージ、音楽をかけて電気を少し暗くして行う）			
7	実績・評価	・H28 年 糸島市社会福祉大会にて表彰され、功労賞を受賞。			
8	力を入れている事	・月に3～4回を細く長く続けたい。 ・人とふれあうことが大切だと考えている。			
9	活動上の問題点及び課題	・研修を受けないと参加できないので講習の機会がない。 ・人に教えるにはより上位の研修有、団体の活動にも参加して忙しくなる。 ・触られるとくすぐったいとたまに言われる。			
10	問題解決策	・社協で研修を開催していただいた。5～6 人程度増加してありがたい。 ・定期的に講座を開催できればよい。			
11	将来像	・細く長く続けたい。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	ボランティアグループ志摩の輪		代表者	猿渡 勇
2	種別	NPO・ボランティア団体 (平成元年設立、来年 30 周年)			
3	活動分野	高齢者福祉（市の行事の助勢）			
4	会員数	会員数 【 38 名 】 男性 2 名			
5	性別構成	ほぼ女性			
6	活動内容	・施設のお手伝い（洗濯物を畳む、買物、バスハイク、初詣などに同行） 小富士病院…折り紙のみ パキスとあかり…ファッションショーとカラオケ時のお茶出し ・毎週月曜日 桜野・野北の下校見守り ・内部の学習交流会			
7	実績・評価	・30 年の実績がある ・校区ごとに分かれている			
8	力を入れている事	・現状維持 今は、オファーをどうこなしていくか、できない状態 ・交流、学習会の開催			
9	活動上の問題点及び課題	・ボラする側も高齢化…38 名いるが動いているのは 10 数名というのが課題 ボラ依頼もらうのはいいが、動ける人が少ないの課題。 ・のぞみの里がなくなったことでボランティアさん達もやめていく。 ・若い人が入ってきにくい。 ・移動手段の課題。（車を持っている人と持っていない人）			
10	問題解決策	・会員を増やしたりする解決策は、今のところない。 ・移動の手段…車を持っている方とコンビを組んで実施。 ・楽しみを作り、サロンの形式でボランティアをするという形も良いかもしれない。			
11	将来像	・将来このまま続けていくのは厳しい。 ・施設側もそこまで人手（ボランティア）を求めているのではないかと感じる。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	セラピューティックケアハーモニー	代表者	猿渡 スミエ
2	種別	NPO・ボランティア団体 (平成 17 年)		
3	活動分野	高齢者福祉		
4	会員数	会員数 【 7 名 】		
5	性別構成	すべて女性		
6	活動内容	・施設デイサービス、地域サロン等で活動。 ・精神的、肉体的な癒しのマッサージ。(月 3 回 定期的に活動している。)		
7	実績・評価	・何回か通う中で、参加者は最初、興味がないけれども、1 回するととても楽しく待って おられる。 ・ボランティアをすることで、自分たちが学びを得られる。 ・達成という目標でしてきたわけではなく、受け身の姿勢で活動してきた。 ・サロンから依頼があったら行う。リピートがあると嬉しい。		
8	力を入れている事	・特になし、受け身の姿勢である。		
9	活動上の問題点及び課題	・会員が増えてほしいが、セラピューティック・ケアの研修を修了しないといけない。 ・移動は乗り合わせていく。少人数なので心配はない。 ・免許を返納すれば活動が続けられない。		
10	問題解決策	・研修を開催する。 ・少人数のため、もめ事もない。 ・できる時にできる人がする。無理をしない活動をしている。少ないときは、2 人で行く こともある。		
11	将来像	・現状維持、長くできたらいいと思う。 ・声がかかるところは行かせていただきたいと考えている。		

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	ジネスボランティア		代表者	岡 三恵子
2	種別	NPO・ボランティア団体			
3	活動分野	高齢者福祉			
4	会員数	会員数 【 18 名 】 男性 1 名			
5	性別構成	ほぼ女性			
6	活動内容	・介護施設での高齢者、障がい者の方々に、お肌のお手入れ、お化粧品を通しての自立支援 ・生活の中で起きる困りごとのお手伝い。年中無休、24 時間対応。			
7	実績・評価	・平成 15 年 NPO として認可、ボランティア 15 年以上継続している。（糸島市 8 ヶ所・市内 3 ヶ所） ・障がい者ファッションショー3 回、コンサート数回、子どもクリスマス会を実施している。 ・市役所、包括からの相談紹介も増えつつあります。 ・まちづくり助成金を受けた。			
8	力を入れている事	・従来の活動の他、サロンなどの要請があれば活動し、又、他の公民館の催しなどの参加している。 ・子育て支援、料理。			
9	活動上の問題点及び課題	・会員の高齢化・会員が忙しい。 ・会員の給料が出来高制なので、収入が不安定。 自立型 NPO 法人なので経営が大変難しい。 ・ハード、時間給（短時間でいくつも多くのことをこなす、効率的な仕事要求） ・出産前後、母 障がい有（子どもの入浴など）ケア必要とされている。 ・認知症カフェやあごらまでの移動手段ない。 ・零細なので事務所も代表の自宅、24H 対応で電話もすべて受け、行く人いないと自分が行く。			
10	問題解決策	・活動の紹介と、アピールなどで、広く認知度を上げる。 ・公的機関からの協働などで資金を得られないか？ ・市職員がカフェの時送迎できないか…市は自分たちでしてくれと言っていた。 ・人を入れたいが仕事を増やすことと同時にすること難しい。			
11	将来像	・今のまま続けたい。 ・今後益々需要は増えると思う。 人手不足を解決しないと将来はない。若い人に入ってほしい。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	キューティースマイル	代表者	有田 豊子
2	種別	NPO・ボランティア団体		
3	活動分野	高齢者福祉		
4	会員数	会員数 【 13 名 】		
5	性別構成	すべて女性		
6	活動内容	・各サロンにおける活動支援。 ・立ち上げ時よりメニューや材料が増えて家に沢山ある。自作のものもある。 （もらった活動費を材料費に充てている。） ・活動費は自費で行う。（山本秋子さんに教えてもらう・講習会など）		
7	実績・評価	・自作のゲームが喜ばれた時がやりがいがある。 ・出来上がりがきれいなように作れたこと。 ・やらされてる感が無いのが続く秘訣かも。疲れるが、すごく楽しい。		
8	力を入れている事	・力を入れていることはゲーム。 ・試行錯誤してよいものを作る ・今、山本さんが担当しているストレッチ体操を他の人もマスターしたい。 歌に合わせて創作体操・替え歌。 ・新しい会員には見て学んでもらう。		
9	活動上の問題点及び課題	・活動先への移動（運転できないメンバーがいるし、今後心配である。） ・1回4人は必要。（ゲームのサポート） ・メンバーの高齢化もあり続けていけるかという不安。 ・メンバーが愛着のある道具は貸し出さない。		
10	問題解決策	・リーダー的な男性がいればよい。 ・サロン会場で車が止められないので困るところがある。 ・新しいボラ養成。 ・新しいグループが送迎してくれるとよい		
11	将来像	・相性の合う新人さんに入ってきてもらい、引き継いでもらいたい ・活動をこよなく愛してくれる人 ・犠牲になる活動だと不満が出る ・家族の理解（車をぶつけると活動は止めよと言われる）		

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	はつらつマイスターズ	代表者	原田 ツル子
2	種別	NPO・ボランティア団体		
3	活動分野	高齢者福祉		
4	会員数	会員数 【 19 名】		
5	性別構成	ほぼ女性 （男性 1 名）		
6	活動内容	・地域サロン（高齢者サロン・シニアクラブ・公民館活動）のサポート。 ・脳トレ、ストレッチ、手芸、歌のレクリエーション、折り紙、転ばん体操（糸島市健康体操）など。 ・1 サロンあたり、3 人などで活動…時間配分が大事。（疲れないように）		
7	実績・評価	・サロンの依頼を 10 年間活動ができたこと。年々サロンの依頼が増えたこと。 ・年に 100 回程行っている。定期的に毎月呼んでくれるサロンが増えた。 ・現在はメンバー全員が積極的に活動している。 ・サロンの参加者と一緒に楽しめた。笑顔をみるといいなと思う。 ・自宅で実践してくださって効果を喜ばしく思われています。		
8	力を入れている事	・市が進めている、転ばん体操・認知症予防に脳トレ・歌のレクリエーションなど。 ・転ばん体操をどこに行っても「知っています」と言ってもらえるようにしていきたい。 ・年齢を重ねる事と肉体的な衰えをカバーできるようにサポートする。		
9	活動上の問題点及び課題	・サロン活動に必要なレクリエーションや物づくりの勉強会がない。 ・高齢になっていくので遠くまでの活動が難しくなる。 ・車の運転ができなくなる。 ・若い方の入会がない。（長くメンバーが固定されている団体にいきなり入るのは難しい） ・二丈に行くことがない。（ボランティアはるかも活動しているため）		
10	問題解決策	・市や社協に講師をお願いしたい。勉強のできる場を作ってほしい。 ・役所がボランティア養成講座をもっと有意義な講座に見直していけたらと思う。 ・若い人ももちろんだが、元気な高齢者にも入ってほしい。		
11	将来像	・会員が増えてほしい。若い人、元気な人、やる気のある人等。 ・活動の継続。 ・所属しているメンバーが楽しめて、参加している人々がより楽しめる団体を望んでいる。		

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	糸島在宅ホスピスボランティアの会ヴィオラ		代表者	古賀 照枝
2	種別	福祉団体			
3	活動分野	高齢者福祉			
4	会員数	会員数 【 19 名 】			
5	性別構成	すべて女性			
6	活動内容	・月1回 定例会を行う。(第3土曜日) ・糸島で在宅療養されている方とその家族の心の支えとなるため、居宅を訪問し、見守り、話し相手、などのお手伝いをしている。(家族がいる時もあればいない時もある。) ・在宅ホスピスに関するイベントや関係する諸機関の事業に協力している。(医師会関係)			
7	実績・評価	・訪問活動 H28年度 訪問回数 93回 のべ183人 対象家庭11件。 H29年は8月末で82回 活動としては増加傾向 ・当人ではなくご家族の方からのお話が増えている。メンバーが増えればもっと関わっていけるのではないかと考える。			
8	力を入れている事	・訪問活動の拡大、充実 ・メンバーのスキルアップ研修 ・ケアマネージャーとの連絡			
9	活動上の問題点及び課題	・利用者が思うように増えない。(訪問回数が増えた。)ただ、会員も増えないので目下ぎりぎりの訪問活動である。 ・会員の移動手段として車の運転ができないと活動範囲が狭くなる。			
10	問題解決策	・在宅ホスピスを市民に周知してもらおう。たとえば、市と協力して小地域での”ホスピスを語る会“を開くなど。 ・公民館サークルの集まりに行つてヴィオラのPRをする。 ・会員増加のために、在宅ホスピスボランティア養成講座を他のボランティア講座介護予防講座や介護講座など、内容など考慮し協力して行う			
11	将来像	・小地域に見守りボランティア活動が充実してくれば、その一部として終末期も当然支えていきますという形の小地域となる。 ・高齢者が増える今後、高齢者同士の療養者と介護者の心の支えの必要性は変わらないと思う。 ・当団体とのコンタクトの取り方など、多くの方に伝える。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	ボランティアはるか		代表者	谷口 範子
2	種別	NPO・ボランティア団体 H20 発足			
3	活動分野	その他			
4	会員数	会員数 【 12 名 】			
5	性別構成	すべて女性			
6	活動内容	・サロン支援（ゲーム、レクリエーション、脳トレ、ころぼん体操）			
7	実績・評価	・平成 28 年のはのべ 57 サロン 161 名 サロン参加者 1,131 人の参加。 ・依頼は 9 割方、二丈のサロン。 ・参加者に喜んでもらうこと。楽しみにして待っておられる。 ・顔見知りになる。 ・必要されている。			
8	力を入れている事	・ゲーム・卓球バレー 2 台。 ・自分自身も楽しませようと努力する。 ・サロンの状況に応じて考えている。特に人員構成。 ・会員の仲がいい。			
9	活動上の問題点及び課題	・会員の高齢化。 ・もともと地元のメンバーは少ない。 ・サロンまでの、バスまでの移動手段。			
10	問題解決策	・レクリエーション講座を行う。 ・行政区に限らず、場所、空き家や広い家をサロン化すること。			
11	将来像	・二丈だけじゃなくて、他の地域でも活動を増やす。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	ひまわりの会		代表者	前田 早苗
2	種別	NPO・ボランティア団体			
3	活動分野	高齢者福祉			
4	会員数	会員数 【 6 名 】			
5	性別構成	すべて女性			
6	活動内容	・しあわせ教室の手伝い（20 分程度）作業、脳トレ、手作り品作成 ・福祉施設慰問（福寿苑、福吉多機能、笑顔） ・独居老人慰安会時に手作り品プレゼント			
7	実績・評価	・しあわせ教室 20 回 （60 人）1 回×3 人 二丈地区のみ ・個人の活動費もなく活動している良さを評価している			
8	力を入れている事	・語らいが大事→地域のシニアクラブの方たちと触れ合う ・最近は個人情報のこともあるが、対面でお聞きすることができる ・施設で身近に接している			
9	活動上の問題点及び課題	・交通の手段が無い。運転免許が無い。 ・自身の健康と家族の健康が大事で、介護、病気すると途端に活動が不自由になる（不安）			
10	問題解決策	・施設から送迎がある。 ・家族にお願いしている。			
11	将来像	・頑張れるところまで活動して、自然と、しあわせ教室の参加者になればよい。 ・高齢になる私たちが自然と諸先輩シニアの仲間にとけこんでいくことが必要。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	白菊学級		代表者	浦山 美和子
2	種別	NPO・ボランティア団体			
3	活動分野	高齢者福祉			
4	会員数	会員数 【 32 名 】			
5	性別構成	すべて女性			
6	活動内容	・ふる里、仙寿苑、はまぼう、福吉病院において、話し相手、見守り、そうじ、オムツたたみ等の支援を行う。 ・月1回、グループ毎に分かれて活動している。（ふる里コース・仙寿苑コースがある）			
7	実績・評価	・活動先で、知っている方がいれば積極的に声をかける。 ・みんなで、施設に訪問し介護や高齢者との関わり方など少しでも知識を得ている。 ・基本的に介護知識、言葉のかけ方など自身の勉強につながっている。			
8	力を入れている事	・地域は大事にしたい。地域の中で密着した活動を行っている。たとえば、校区のマラソン大会でぜんざい・文化祭でお弁当を作っている。 ・公民館活動に協力している。			
9	活動上の問題点及び課題	・会員の高齢化 ・会員獲得として、知り合いに声をかけてはいるが、エステとかカルチャセンターに行く人が多い。ボランティアに目を向ける人がいない。 ・打算的な考えの人が多くなった気がする。 ・移動の手段			
10	問題解決策	・若い世代が減少しないように、留める。70歳位はまだ働いている。いかに若い人に入ってもらうかが問題。 ・福吉公民館便りでお知らせを継続する。 ・今後とも口コミで会員募集をしていることを広める。			
11	将来像	・楽しんでもするのがボランティアである。 ・楽しんで活動する→役員（役割分担をして）お弁当作りなど→売上を使ってお疲れ様会 ・見守り隊を作る ・文化祭に出店する際、テーマを決めて展示したい。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	いとのか		代表者	中原 信恵
2	種別	福祉団体			
3	活動分野	高齢者福祉			
4	会員数	会員数 【 34 名 】			
5	性別構成	すべて女性			
6	活動内容	・サロンでは、運動、絵、工作、ニュースポーツ（ラダーゲッターなど）をしている。 ・活動は1時間半。手作り品は希望があれば行う。 ・マイネス 洗濯物たたみ、棚に整理する。月2回（第1・3）（50人分を3～4人で行う）			
7	実績・評価	・サロン・施設に行く。（運動を取り入れる） ・「来ましたよ～」というと参加者から笑顔を返してもらえることが、やりがいになっている。 ・初回や手作業のある時は、その方の指先の動きを観察して内容を変えている。			
8	力を入れている事	・会員の募集…はつらつ館で勉強している方達に声掛けをする。 ・工夫をして、子どもが理解できるようにやり方(作り方)を変えている。 ・事前の準備…会員に今の活動に出てきてもらう。			
9	活動上の問題点及び課題	・お手伝いしてくれる人(会員さん)を増やすこと。 ・送迎が必要・技術（折り紙など）の向上が必要。			
10	問題解決策	・よく来ていただける方に会員に入ってもらい、今後運転出来る人を増やしたい。 ・あごらのボランティアルームを借りて、練習の機会を作っている。 ・時間のありそうな方に声掛けをしている。			
11	将来像	・団体の活動が長く続いてほしい。すべての連絡調整を代表者が一人で行っているため、役を分けても活動を行いたい。 ・今の会員さんにもっと出て来てもらえるようにしたい。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	福寿の会	代表者	上田 登美子
2	種別	NPO・ボランティア団体 (昭和 60 年設立 活動 30 年)		
3	活動分野	高齢者福祉		
4	会員数	会員数 【 11 名 】 もともと 30 名、高齢でやめていかれる。		
5	性別構成	すべて女性		
6	活動内容	・ 富の里（第 1・3 水曜）10 時～12 時、それいゆ（第 4 月曜）で 10 時～12 時 2、3 人で活動（衣類の補正、フキン、バスマット作り等）かつてはマイネスにも行っていたが最近は行っていない。		
7	実績・評価	・ 30 年続けてきたこと ・ 年間 100 回以上活動を行っていること		
8	力を入れている事	・ 現在している事を続けていくこと		
9	活動上の問題点及び課題	・ 会費が足りない。会員に交通費を渡しているが、足りない。 ・ 会員の減少。 ・ 運転出来る方が少ない。 ・ 活動 1 人 1 回 300 円を交通費として渡している。		
10	問題解決策	・ 会員獲得は、口コミや知り合いに声掛けをする。 ・ 新しい会員さんに参加していただき、車の送迎ができればいいと思う。		
11	将来像	・ 活動の継続。 ・ なるべく気心がしれた方に入っていただきたいので、口コミで会員を募集していきたい。		

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	ふる里		代表者	星乃 幸子
2	種別	NPO・ボランティア団体 (昭和 58 年設立)			
3	活動分野	高齢者福祉			
4	会員数	会員数 【 4 名 】 リボンの会と重なっている人が多い。			
5	性別構成	すべて女性			
6	活動内容	・ 高齢者施設(老健センターふる里)のデイケアの場で童謡、唱歌を一緒に歌うこと 月 1 回 14～15 時			
7	実績・評価	・ 参加された方が、昔の歌を歌うことで思い出して楽しそうです。(「懐かしかった」「この歌知ってる」の声) ・ 歌う方が減ってきている ・ カラオケを施設でやっている…私達が行く意味あるのかなと考えるようになった。			
8	力を入れている事	・ 1 時間だけですが職員の方がするのとは違う空気を味わえるようになる。 ・ 自分たちが訪問することで、職員の方が他の業務ができる。			
9	活動上の問題点及び課題	・ 50, 60 代まではいいけど、それ以上は車の運転、移動が不安。 ・ 車がなかったら行けない、送迎はしてもらえるが、そこまでしてもらわなくてもいい ・ 若い方は仕事をされていてボランティアに加わってもらえない。 ・ 利用者の方が、歌わない、歌えない。 ・ 今の 50 代、60 代は、自分の時間を割いてまでやらないという人が多い。			
10	問題解決策	・ 「やめたい」というのが本音、今のメンバーでできるところまでして解散へ			
11	将来像	・ 設問 10 と同じ			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	リボンの会	代表者	中村 玲子（回答 星乃幸子）
2	種別	NPO・ボランティア団体		
3	活動分野	その他		
4	会員数	会員数 【 6 名 】		
5	性別構成	すべて女性		
6	活動内容	・グループホームで外出 車いすを押して移動の支援。 ・ふる里まつりに連れて行く。 ・話し相手 クリスマス会 ・掃除 ・縫い物		
7	実績・評価			
8	力を入れている事			
9	活動上の問題点及び課題	・50,60代まではいいけど、それ以上は車の運転、移動が不安 ・車がなかったら行けない、送迎はしてもらえるが、そこまでしてもらわなくてもいい ・若い方は仕事をされていてボランティアに加わってもらうことができない ・利用者の方が、「歌わない、歌えない」 ・今の50代、60代は、自分の時間を割いてまでやらないという人が多い		
10	問題解決策	・隣近所で、「あれ買ってきて」「これ買ってきて」と言える人がいればいいのに。皆、責任逃れして手を差し伸べようとしない。		
11	将来像	・今のメンバーでできるところまでして解散しようかと考えている。		

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	回想法ボランティアつんのて		代表者	高鍋 健児
2	種別	NPO・ボランティア団体			
3	活動分野	高齢者福祉			
4	会員数	会員数 【 18 名 】			
5	性別構成	半々			
6	活動内容	・糸島市内のサロン・デイサービスそれいゆなどで回想法ボランティアの実践活動訪問先の団体の参加者を 5～6 名のグループに分けて「つんのて」のメンバーが各班に 1～2 名入りテーマ（昔の遊び・暮らし・子ども・青春時代・戦前戦後の生活等）に沿って高齢者に思い出を語っていただく役割（話の引き出しの手伝い）を担っている。話の聴き役。 活動の後に反省会をする他、研究会をしている。また、それとは別に会員で集まり食事をしたりしながら互いに昔話をする機会を作り見識を深め、話の引き出しを増やしている。 ・ずっと自分の話をしたい、聞いてほしい人もいる為、1 班に全員が 2 人入り、1 人が他の参加者を 1 人が 1 対 1 で話す等、その場に応じて話をとぎらせず、全員が参加できるよう気を配る必要がある。			
7	実績・評価	・平成 28 年実践活動 8 回、サロン等の参加 157 名、平成 29 年 11 月まで 9 回 180 名、毎年研究会（グループで座談会）3～4 回、同じサロンの方同士もお互いに経験を語りあってより親しくなられた。自宅では話すことのない昔話をする事でサロン参加者の表情が明るくなり、生き生きと話された。ボランティアも色々珍しい話を聞くことが出来て次の活動に役立つ。 ・普段話さない人も、様々な道具に触れ、言葉を話したり、態度が和らいだりと変化がみられる（その為に、昔のおもちゃや昭和のスターかるた等揃えている）。家族にも話せないことを話せた、楽しかったといった声が聞かれる。本人の変化もさることながら、その話を聞いた周囲とのコミュニケーションにもなっている。本人も周囲も“深める”。話をする、又、物思いにふける中で少し脳を柔らかくする。研修会をすれば介護関係者も来て、関心高い。			
8	力を入れている事	・ボランティア同士の親交を深める為に歴史資料館、先進地の見学報告（北名古屋市）、昔の歌手、俳優の写真等を話題にして、ボランティア活動が話題の収集研究。 ・サロン、デイサービスセンターの参加者の皆さんが各自の回想を通じて楽しいひと時を過ぎて、参加者間の交流の輪が広がるように工夫研究。 ・道具を揃えると参加者それぞれに違うアンテナに引っかかるものが、見つかりやすく、新たにスターかるたを取り入れ、実際に効果も見られた。おはじき、マリ、駒、お手玉、あやとり、五寸釘…等を 1 袋にまとめたものを 5 セット用意。購入するのにお金がかかる為、安く調達するが、そうすると駒などはよく回らないなど、道具にもお金がかかる。			

9	活動上の問題点及び課題	・回想法は、5～6 人のグループに分かれて各グループにボランティアが 2 名入って行うのがよいので実働できる会員がもう少し増えてほしい。 ・「つんのて」の会員のほとんどが地域活動、他団体での活動をしているので毎月 2 回の活動は少し無理がある（やりたい気持ちはある）。 ・回想法を深めていこうとすると難しい。大学などで専門的に勉強している会員もいるが、多くはそこまでいかない。 ・青春時代のことなどプライベートなことをどこまで踏み込んでよいか迷う。近所の人がいる場では話にくいことも。 ・民具などを直接見られれば、回想法深まるが、高齢者は資料館まで行けない。 ・道具を増やしたいがお金がない
10	問題解決策	・平成 28 年に社協からの助成金をいただき回想法入門研修会を開催して、6 名の新規加入があり、かなり改善した。平成 28 年の研修会は 40 名以上の申し込みがあり関心の高いことを知った。 ・九大を招いての講座、見学会など、社協で計画していただきたい。回想法入門講座を「つんのて」だけで実施するのは荷が重すぎる。 ・志摩の資料館で研修し、民具の写真を撮らせてもらい、サロンなどへ持って行っている。研修を通して、資料館とやり取りすることができた。
11	将来像	・年金支給年齢の引き上げ等のためか、ボランティア活動に参加する若い人（50～60 代）が少ないので、継続について心配がある。 ・老々ボランティアもそれなりに有意義と思いますが 50～60 代の人たちをボランティア活動に誘うための工夫が必要。そうしないと先細りになる。 ・地域で役をしていたりと、会員も忙しく、年齢層は幅広く新たな会員がほしい。 ・研修をすれば人が集まりはするが、活動にはつながらない等、自身のスキルアップに関心高いが、実際に活動する人をいかに獲得していくかが課題である。

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	要約筆記の会いとしま		代表者	室岡 登望子
2	種別	福祉団体			
3	活動分野	障がい者福祉			
4	会員数	会員数 【 12 名 】			
5	性別構成	ほぼ女性			
6	活動内容	・ H20 年度に発会 聴覚障がい者の社会参画と社会生活向上に寄与し、福祉に貢献することを活動目的として、聴覚障がい者の「聞こえ」を支援。 ・ 市民や団体を対象とした「聞こえのサポーター講座」の開催や、講演会・イベントなどで要約筆記を行っている。			
7	実績・評価	・ 「聞こえのサポーター講座」は年に 1～2 階、市と合同開催。 アンケート結果によると、聴覚障害に対する理解を得られたことなどの効果がみられる。 ・ 要約筆記依頼は年に 10 回程度で、文字による情報伝達に貢献できている。			
8	力を入れている事	・ 聞こえないことによる不便さ・困難さに対する理解を深めること。 ・ 要約筆記の知識や技術向上のための研修。			
9	活動上の問題点及び課題	・ 会員が増えず、将来の活動に不安がある。特に要約筆記活動は、講座の受講と認定試験に合格することが必要とされていることから、そのことに対応できる会員要約筆記者の人材不足が深刻な課題。要約筆記奉仕員の養成を残すべきだったのではないかな。 ・ 要約筆記のニーズが見えにくい。手話を言語とする人達よりも難聴者・中途失聴者の行動は消極的であり、存在が分かりにくいぶん環境整備が進みにくい。			
10	問題解決策	・ 要約筆記者養成は県の事業であり、要約筆記者の増員を会が独自で対策をすることは困難。 ・ 中途失聴者・難聴者から、要約筆記対応の場を求める声上がる事も必要。 (周知するツールにもなるから)			
11	将来像	・ 新規会員の加入と要約筆記者の増加が実現できて、糸島地域で困っている聴覚障がい者の為に貢献できる団体になりたい。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	糸島防災士会てまがえ隊		代表者	有松 智文
2	種別	NPO・ボランティア団体			
3	活動分野	その他			
4	会員数	会員数 【 43 名 】			
5	性別構成	半々			
6	活動内容	・ 防災に関する啓発活動や防災力強化のための勉強会。 ・ 災害図上訓練（DIG）・救急救命講習、防災運動会・地域のイベントを活用した「てまがえ隊」活動紹介。			
7	実績・評価	・ 発足から 9 年目を向え行政区からの研修要請や糸島市危機管理課経由での研修依頼も来るようになった。平成 28 年度には、福岡県の防災推進に貢献をした団体として、福岡県防災賞を受賞することができた。			
8	力を入れている事				
9	活動上の問題点及び課題	・ 登録している会員は多いが、積極的に活動に参加しているメンバーは限られたメンバーとなることが多い。多くの会員が参加できるような工夫が必要と考えている。			
10	問題解決策	・ メンバー自身のスキルアップ研修や懇親会等開催し、気があるに参加できる場を作っていきたい。			
11	将来像	・ 特定のメンバーだけで活動するのではなく、メンバー各人のレベルアップを図り、誰もが、研修等のリーダー役が実行できるようにしていきたい。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	朗読ボランティアあめんぼ	代表者	鶴田 政子
2	種別	NPO・ボランティア団体		
3	活動分野	高齢者福祉、障がい者福祉、母子・子ども福祉		
4	会員数	会員数 【 9 名 】		
5	性別構成	ほぼ女性（1名男性）		
6	活動内容	・社協ニュース（年6回）、ハーネスの音訳。 ・保育園での読み聞かせ。（4カ所週に1度、月4回） ・さいとぴあ チャイルドルーム(11月～)第1金曜開催、1才前後親子30分お話し会。 ・デイサービス（それいゆ 月1回・あごら2回・東町サロン昨年から年1回）にて、高齢者紙芝居、歌芝居、演奏。		
7	実績・評価	・“読む”絵本・作品・紙芝居など、責任を持って活動している。 ・対面朗読をしていたこともある（活動の変化）20年以上行っている。 ・保育園での読み聞かせは17～18年継続。デイサービスそれいゆは3年。 ・録音の変化に対応し、パソコンソフト（プレックストーク）録音が可能になった。 ・朗読を主体としたボランティア活動の為、活動内容が広い。 ・メンバーの人間関係の円滑に恵まれてきた。		
8	力を入れている事	・月に1回勉強会、定例会の他に朗読の勉強。 ・音訳に力を入れているが読み聞かせを初心者から初めて「次回も」と言われて「楽しい」と「好き」で続いている。活動した結果心の糧になっている（17～18年） ・ラポール講座「朗読をやってみよう」がきっかけで開始。 ・デイサービスやサロンからの要請が増えつつあるので、対応できるよう工夫している。		
9	活動上の問題点及び課題	・会員の減少と高齢化で新たな会員獲得が難しい。 （理由）①ハードル高い→音訳（テープからCD、入力パソコン）→隔月では心もとない。②活動が多岐にわたる。 ・他の団体との違い。ラポールスタート（音訳のみというバリエーション） ・外部へ出かけて活動するため車の運転ができなくなる不安も出てくる。		
10	問題解決策	・募集の仕方を工夫する。すべて見せていたが、この部分だけですからとできますというPRをする。 ・ボランティアじゃないボランティア（準備→その日の対象者に合わせてライブ） ・PRの仕方に工夫すれば増員につながるのではないかな。 ・図書館での大型絵本の借り方。 ・視覚障がいの方からの要望を受ける活動が存在意義だと考えている。		
11	将来像	・糸島市内で視覚障がいの方からの要望があって活動するのが望ましい。 ・音声図書があれば別だが無いので、全国どこでも読物を取り寄せられる。 ・単一のお願ひから応えていけるようになる。 ・人数の限りに合わせて、ニーズを高齢者向けニーズに工夫する。 ・朗読ボランティアせせらぎとは違う会としての方向性で活動しているため、合体は考えていない。できる間継続したい。		

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	火よう会	代表者	濱地 ミツエ
2	種別	NPO・ボランティア団体		
3	活動分野	障がい者福祉		
4	会員数	会員数 【 17 名 】		
5	性別構成	すべて女性 （制限なし）		
6	活動内容	・障がい者福祉支援 ・デイサービス（あごらのデイ）外出支援 ・平和劇にも出品		
7	実績・評価	・手芸品（エプロン、アームカバー、ネーム入れ）をバザーで販売。 ・収益を社協、施設（たんぽぽ）へ寄付。 ・デイ外出支援への協力。 ・市内、平和劇協賛、災害時寄付、社協（平均5万の特別会費）へ寄付。		
8	力を入れている事	・現状維持が目標。		
9	活動上の問題点及び課題	・会員の高齢化、減少（最大20～25人位） ・会に入っても定着せず、脱退してしまう。 ・新会員との考えの違いがある。 ・会員募集はチラシ、声掛けをしている。		
10	問題解決策	・機会があれば募集する。どっと来られてもミシンの数が限られているので困る。 ・車がない		
11	将来像	・会員が増えて引き継いでくれればいい。もしくは現状維持 ・タンポポさんとの年1回の交流会		

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	二丈菜の花の会		代表者	中原 奈津子
2	種別	NPO・ボランティア団体			
3	活動分野	障がい者福祉			
4	会員数	会員数 【 25 名 】			
5	性別構成	ほぼ女性 （男性 6 名）			
6	活動内容	・ 視覚障がい者との交流、情報交換 ・ 月 2 回集まる。その時々テーマ（ニュース、生活、料理）にそって、年 3 回交流会を行っている。			
7	実績・評価	・ 二丈手話講習会→合併後に無くなった→会員が少しずつ増えている。 ・ 少人数の団体なので家族的な雰囲気がある。 ・ 障がい者同士の交流が増えている。交流の範囲も広がっている。 ・ 志摩、前原からも参加がある。ある程度の交流ができている。			
8	力を入れている事	・ 情報交換…例会等、日常ではあるが、力を入れている。 ・ 交流…年 3 回。分からなかった手話を教えていただいたり			
9	活動上の問題点及び課題	・ 協力してくれる障がい者が前原や市内の方で、二丈まで遠い。 ・ 二丈で聴覚障がい者に会うのが少ない			
10	問題解決策	・ 前原での講座につながるような、二丈できっかけ作りをする。			
11	将来像	・ すそ野を広げる。 ・ 前原では出来ないことを二丈で行う。 ・ 細々とはあるが、絶やさずに活動を行っていきたい。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	糸島手話の会		代表者	友池 はすみ
2	種別	NPO・ボランティア団体			
3	活動分野	障がい者福祉			
4	会員数	会員数 【 37 名 】			
5	性別構成	ほぼ女性（男性 8 名）			
6	活動内容	・聴覚障がい者の方との交流、情報保障。糸島市聴覚障害者協会と共に活動をしている。 ・交流、週 1 例会を行う。話題になっている事を共有、歴史やろう協が生活上困ることを学習する。 ・手話の技術向上のための行事。 ・情報保障（差別解消法以降特に）近年増えてきている。			
7	実績・評価	・聴覚障がい者への理解…認知度が高まってきている。 ・手話奉仕員養成講座を通して手話の学習した人も市内に増えて来た。 ・講演会の時には通訳が必要という認識広まり、依頼も増えている。 ・手話の重要性が理解され場閉めたのでは。 ・学校等での学習など、糸島市聴覚障害者協会が主役になって活動も増えている。			
8	力を入れている事	・災害対策実行委員会を、糸島市聴覚障害者協会と“必要だ”という事で設立。月 1 集まり、更に手話の会の例会で 2 ヶ月に一度学習会もしている。日頃の備えとしての知識を身につける他、ろう者の家から避難所まで歩いてみてルートを確認する、地図を作る、名簿を作るということ、講師からの研修を受ける等、取り組んでいる。			
9	活動上の問題点及び課題	・会員のうち仕事している人も多く、昼間の派遣には仕事していない人でないと難しい等負担に隔たり、又、会員が集まらない、定着しない。講座受けて入会は 1～2 人(年)。親の介護など理由に退会などもある。会員の中で通訳者になれる人は一部、活動の中心になる人少ない。ベテラン会員の高齢化もしている。人材育成が一番課題。			
10	問題解決策	・例会を楽しく！とても大切な機会として捉え新会員が又来たいと思えるような雰囲気をつくる。通訳はせず、交流のみという方もいる。それぞれが、目的違っていいと考えられること、したいことから取り組んでもらえるように。			
11	将来像	・聴覚障害者協会との仲の良さは県内でも有名、どちらが出すぎても行けない“両輪のように” これからも災害…委員会をしようという話が出たのも、双方に話した中で出た。強みになっている。今年は手話言語条例を市として策定するよう働きかける。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	朗読ボランティアせせらぎ		代表者	桑原 みどり
2	種別	NPO・ボランティア団体 (平成元年に設立)			
3	活動分野	障がい者福祉			
4	会員数	会員数 【18 名】			
5	性別構成	ほぼ女性（男性 2 名）			
6	活動内容	・視覚障がい者へ朗読を提供することを目的とする。			
7	実績・評価	・月に 2 回広報「いとしま」を朗読したテープ、CD を作成、送付を行う。			
8	力を入れている事	・ボランティア自立運営の講座。 ・30 周年記念イベントとして朗読会を開催する。 ・会員のモチベーションを保つこと。 （2 年間程リスナー探しをしたが社協組合員の増加しかない） ・6 月に朗読会を開催。			
9	活動上の問題点及び課題	・現時点では問題なし。 ・課題としては、今後の流れの変化に対応していく事。			
10	問題解決策	・臨機応変に対応する。 ・メンバー内の結束力をもって対応する。 ・新規リスナーさんの開拓。 ・聞いていてよかったと思っていただく。 ・会員が、「してあげている」という雰囲気・気持ちを出さないように。			
11	将来像	・現状維持。 ・3 年先、10 年先に CD を使わなくなっても、リスナーさんが増えても大丈夫な状況になること。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	認定NPO法人九州補助犬協会	代表者	桜井 恭子
2	種別	NPO・ボランティア団体		
3	活動分野	障がい者福祉（身体障がい者）		
4	会員数	会員数（職員） 【 3名 】 常時ではないが、活動できる方が1名		
5	性別構成	ほぼ女性		
6	活動内容	・ 介助犬育成、啓発 ・ インデペンデンスデー（ふれあいで毎年開催） ・ セラピー犬育成、啓発 ・ 補助犬啓発（DVD 上映・講義・体験） ・ 相談業務（貸与に関して）		
7	実績・評価	・ 例年の啓発活動での理解が得られた。 ・ 南風小、通年授業の一環として時間をいただいている。 ・ 文化祭等で玄洋中学校、生徒会中心で募金活動を行った。 ・ 糸島市に限れば、盲導犬と間違えられることがあまりない。啓発の効果だと考えられる。 ・ 社協関係のイベントに出演することが多い。		
8	力を入れている事	・ 補助犬育成の認定試験が難しい。兵庫（その他関東）まで遠いので、自身の協会で育成、認定できる団体になりたい。九州は介助犬がまだまだ少ない。利用者一人一人に合わせたマンツーマンの訓練が必要。		
9	活動上の問題点及び課題	・ 補助犬の育成にかかる、訓練から貸与まで資金の確保が難しい。 ・ 人材育成と人材の確保が難しい。 ・ 介助犬が合格するにはどうするか、対策を立てていくのが大変である。		
10	問題解決策	・ 問題について、介助犬について存在を知っていただき、支援者を増やし、活動の幅を広げたい。認定できる団体になっていきたい。		
11	将来像	・ 長い目で見ると、マンツーマンでの訓練が必要。 ・ 介助犬のニーズを持つ方に対して、地域の方と密に関わって行きたい。 ・ 組織としては小さくても、ニーズにあった介助犬を育成していきたい。 ・ スーパードッグではなくて、将来的には普通に見かける普通な存在になれたらいいと考えている。		

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	おもちゃ病院伊都国	代表者	波多江 保彦
2	種別	NPO・ボランティア団体		
3	活動分野	その他		
4	会員数	会員数 【 26 名 】	うち女性 6 名	
5	性別構成	ほぼ男性		
6	活動内容	1. 壊れたおもちゃの無償修理 2. おもちゃ修理から派生したユニークな活動 （1）小中学校でのおもちゃ修理体験学習の支援 （2）リユース（地域内のおさがり循環）支援 ①「かえっこ」とのコラボレーション ②「おもちゃ箱」		
7	実績・評価	・活動実績：年間 18 回の定期開設と訳 10 回出張開設 ・受賞歴：①H22 年度福岡県市民教育賞、 ②H24 年度福岡県ふくおか共助社会づくり表彰 ③H25 年度朝日新聞社朝日のびのび教育賞、④H25 年度福岡県「70 歳現役社会づくり」 施策の規範に採択、⑤H26 年度糸島市社会福祉大会表彰、⑥H26 年度福岡県ふくおか地 域づくり活動賞、⑦H28 年度環境大臣表彰ほか		
8	力を入れている事	・おもちゃ修理から派生したユニークな活動 （1）小中学校でのおもちゃ修理体験学習支援（今現在 3 か所予定） 人間関係ができる→中学生が保育所へ行き直す→繋がっていく （2）リユース（地域内のおさがり循環） ① 「かえっこ」とのコラボレーション ②「おもちゃ箱」 ※寄付してもらったおもちゃを点検整備して、育児施設・福祉施設に寄贈する活動		
9	活動上の問題点及び課題	・設立 10 周年を迎え、会員の高齢化対策として ① 70 歳未満の新規会員補充 ②企画・渉外業務を担う団体幹部の若返り、 ・安定的な活動資金の確保 ・移動に関しては、道具があるので車が必要		
10	問題解決策	（1） 高齢化対策：①70 歳未満の新会員募集 ②企画・渉外担当マネージャーの募集 ② 代表者交代 （2） 助成金募集の再開（H27 年度以降は助成金に応募していない） ・女性ドクターはいる？→縫い合わせるのでドクターといえどドクターだが「ナース」		
11	将来像	・当団体は成熟期に達しているという認識から、現状維持が当面の課題で、その先のこと には考えが及ばない。強いて言えば、活動過程で起こる新しい事象に対して、身の丈に 合わせて活動範囲を拡大する。 ・NPO 法人格取得を進める意見もあるが法人格取得のメリットとデメリットを比較する と、現状では取得見送りが賢明と考えている。		

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	いとしまの遊び場ったい！		代表者	加茂 晶子
2	種別	NPO・ボランティア団体 (2001 年設立)			
3	活動分野	母子・子ども福祉			
4	会員数	会員数 【 9 名 】			
5	性別構成	ほぼ女性（お母さん中心）			
6	活動内容	・ 四季を通し、野外で自由に遊ぶことを援助する。 ・ Facebook で活動日にアップ、ホームページで紹介等行っている。			
7	実績・評価	・ 月 1 回しか活動できてはいないが、その日を心待ちにしている声が聞かれる。 ・ 子どもとしては、いっぱい遊びたいと聞かれるが、メンバーの人数や負担を考えると活動を増やすのは難しい。			
8	力を入れている事	・ 月 1 回のプレーパークの開催。 ・ 壊れない様なおもちゃを買うようにしている。 ・ 親以外の、第三者の見守りが欲しいとのこと。			
9	活動上の問題点及び課題	・ ボランティアが少なく回数を増やすのが難しい。 ・ 車が有るスタッフが参加できない場合荷物の持ち運びが大変で、何往復もする必要があり、30 分位かかることもある。 ・ 写真をどこまで載せていいか、個人情報の問題難しい。今は後姿など特定の子どもが写らないように工夫している。 ・ 子育て支援センターすくすくの前も使えたらいいと思う。木登りなど、外で遊べそうなスペースがあるため。			
10	問題解決策	・ チラシ・Facebook 等で告知、周知を図り、いろんな人に知ってもらい、来場につなげスタッフ入りを目指す。			
11	将来像	・ 次の代表に代わっても、長く続いてほしい。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	おもちゃ図書館いとお子		代表者	水ノ江 智津子
2	種別	NPO・ボランティア団体			
3	活動分野	母子・子ども福祉			
4	会員数	会員数 【 9 名 】 （設立時 20 名程）			
5	性別構成	すべて女性			
6	活動内容	・布のおもちゃ・木のおもちゃ・プラスチックを手作りし、乳幼児を持つ親子を対象とした遊びの広場の提供。障害のある子どもも遊べるように開催している。 ・障害児デイサービスいとキッズより、子どもと職員が参加される時もある。			
7	実績・評価	・月 2 回（第 2 火曜・4 土曜 10:00～11:30）開館。月 2 回（第 1・3 火曜）制作。 ・2014 年 20 周年を迎え永年活動表彰を受ける。 ・すくすく子どもフェスタの参加。（おもちゃの貸出）			
8	力を入れている事	・親と一緒に遊べるようにできるお手伝いをしていく。 ・障がいのある子もない子も、共に遊び、交流する場となっていきたい。 ・おもちゃを作る時に、子どもたちが怪我をしないように気をつけている。 ・九州ブロック等他のおもちゃ図書館の研修会に参加。 ・来館者の募集（チラシ、いとお子カード作成、市報カレンダーなど）			
9	活動上の問題点及び課題	・来館者の減少（多くて 3・4 組の親子さんが来られる。ゼロの時もある。年々減少している）。 ・会員を増やすことが必要。スタッフ不足、高齢化が課題である。 ・将来的にも会が続けられるか心配。			
10	問題解決策	・開館時間の延長をする。 ・チラシで案内する。 ・いとお子カード作成。 ・市報カレンダーに載せる。			
11	将来像	・団体存続のため、人材の引き継ぎをする。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	つみき文庫		代表者	波多江 久美子
2	種別	NPO・ボランティア団体 (平成4年から)			
3	活動分野	母子・子ども福祉			
4	会員数	会員数 【 11 名 】			
5	性別構成	すべて女性			
6	活動内容	・波多江公民館で夏、冬にお話し会。(1回の参加50人位) ・人形劇(手作り)・小学校読み聞かせ。(月1回)・巨大紙芝居 ・図書コーナーで傷んだ本の修理。(普段は土曜日に活動) ・児童クラブより声がかかり活動が増えた。(波多江小・東風小) ・子どもフェスタに参加。			
7	実績・評価	・H29年糸島市社会福祉大会功労賞受賞。 ・おはなし会を開催。(回覧板・保育園・小学校で呼びかけ)			
8	力を入れている事	・人形劇を通して子ども達の図書活動への誘い掛け、地域の繋がりをつくる。 ・親子で来てもらいたい。 ・若いお母さんに入ってもらいたいがなかなか会員が増えない。			
9	活動上の問題点及び課題	・活動者が仕事と介護に追われている。 ・高齢化、会員の減少。 ・子どもを連れての活動もOKだが遠慮される。 ・動ける方が10人以上欲しい。現在は6～7人。 ・活動の自由度はあるのに伝わっていない。敷居が高いと思われる。			
10	問題解決策	・常に窓を開け受け入れ態勢は作っている。 ・会員獲得は口コミだった。宣伝不足かもしれない。 ・好きな分野でもいいので手伝ってほしい。知り合いで声をかけ合う。 ・若い人は若い人で新しいグループで活動された方がスムーズかもしれない。			
11	将来像	・無理に誘わなくてもいいのかなと考えている。年配の方の中に無理に入るより新しい団体を作ったほうが活動しやすいのかもしれないため。 ・できる範囲はやろうと思っている。 ・現状維持で、会員の活動が可能な限り続けていきたい。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	にこにこ文庫		代表者	仲西 まゆみ
2	種別	NPO・ボランティア団体			
3	活動分野	母子・子ども福祉			
4	会員数	会員数 【 4 名 】			
5	性別構成	すべて女性			
6	活動内容	・ 小学校での読み聞かせ。 ・ 児童クラブでのお話。 ・ 公民館図書整理。 ・ パネルシアター・ブラックシアター・ブックトーク			
7	実績・評価	・ 小学校と連携しての読書推進活動を行えた。 ・ 5 年前から振興大会に新成人を招いているが若者に覚えておいてもらえた。にこにこ文庫のおばちゃんと呼んでもらえたのが嬉しかった。			
8	力を入れている事	・ 良書、多分野の図書を子どもへ届けること。			
9	活動上の問題点及び課題	・ 新規会員がいない。働いてある方が多い。朝読だけでも PTA の方に出てこれれば…			
10	問題解決策	・ 知り合いに声をかけて、地道に会員を増やす。			
11	将来像	・ 子ども達と活動を続けていきたい。 ・ 今の活動を継続させていく。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	食育の会ホーレン草		代表者	松尾 愛子
2	種別	NPO・ボランティア団体 (平成 21 年)			
3	活動分野	母子・子ども福祉			
4	会員数	会員数 【 12 名 】			
5	性別構成	すべて女性			
6	活動内容	・もともと生活習慣病予防 6 講座をもとに（メタボ解消など）の献立作りからスタートしたが、低学年の子どもに対して食育の機会を設けるなど、対象者の幅を広げた。 ・食生活において、作る楽しみ、食べる楽しみを高齢者、低学年親子を対象に活動。 ・デイサービス（それいゆ）にて一緒におやつを作って食べる。 ・地域で親子料理教室（郷土料理）			
7	実績・評価	・食生活習慣病予防の献立、調理をシリーズで実施。広報は、社協の広報誌にて公募、一般の方を対象としている。 ・夏休み中に低学年親子料理教室の実施。 ・「食育の会ホーレン草」のことを知っているなという感じはする。 ・健康大学は全部受けている。			
8	力を入れている事	・デイサービスの施設（それいゆ）にて、月 2 回利用者さんと一緒におやつを作って提供している。1 日 30 名の利用者を 6 人で見守る。2 班に分けて行っている。			
9	活動上の問題点及び課題	・夏休みの親子クッキングは、募集は 8 月号の広報の為、募集期間が短く人が集まらない。 ・自分たち自身の健康も心配で、活動をいつまで続けられるかが不安である。 ・限られている。調理器具を使って、饅頭や団子等が多いので衛生面が心配。 ・メニューを考えるのが難しい。			
10	問題解決策	・手洗い・手袋の使用。この頃は自分から率先して実行してくれる。			
11	将来像	・若い人が入会してもらえるように募集する。 ・自分たちの健康を維持する。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	たけのこ文庫		代表者	吉田 育子
2	種別	NPO・ボランティア団体			
3	活動分野	母子・子ども福祉			
4	会員数	会員数 【 8 名 】			
5	性別構成	すべて女性			
6	活動内容	・小学校での読み聞かせ、公民館でのお話会、児童クラブ・子育て支援センター・ちびっこみなみ・わいわいフェスタなどで活動。児童クラブでの工作（季節のイベントごとに）広報は公民館便り、小学校図書室掲載 ・本の貸し出し（当番制でしている。貸し出しのボラ3名、会員1名の体制）毎週土曜のみ。それ以外は公民館事務室で貸し出し。			
7	実績・評価	・35年間活動。地域（学校）から実演の依頼来るときには他の文庫と平等に振り分けられるが、「たけのこ文庫に来てほしい」と望まれる声多い。 ・人形劇は講師呼び2年がかりで制作。作品集が増え会員でも見たことないものもあるほど。以前は前原南公民館で図書を団体へ貸出していたが数少なくなり、200冊を2階へ上げるのも大変で止めた。			
8	力を入れている事	・パネルシアターの開催。前原南小学校で行ったところ昼休みに小1～小2を中心に100名集まった。 ・新作の実演には、作品選び、制作、練習で1年はかかる。制作し実演したこともあるものでも1～2ヵ月練習に必要。			
9	活動上の問題点及び課題	・活動経費…深江など離れた所に呼ばれることも多く、車だし田人に車代渡したい。 ・実演の下見は自腹（文庫としての活動依頼に1人650円（2名まで）しか出ない） ・作品保管場所…新しく公民館が建て替わると保管場所、活動拠点失う可能性もある。 ・著作権…作品を拡大して使用する事自体、著作権侵害、活動が限定される。 ・本が古くなってきた…古くなると手に取られにくくなるので新しくしたい。 ・図書を2階に上げるのが大変			
10	問題解決策	・古い本は少しずつ整理していく予定。 ・例えば公民館が新しく建て替わりコミュニケーションセンターになっても、活動拠点を校区において活動したい。 ・本に囲まれ地域の人と話し、ゆっくりできる場が地域に必要。			
11	将来像	・絵本を子ども達に読み続けたい。 ・“文庫”としての活動にこだわり、大切にしたい。			

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	布絵本の会 こびとのくつや	代表者	中田 智佐恵
2	種別	NPO・ボランティア団体		
3	活動分野	母子・子ども福祉		
4	会員数	会員数 【 8 名 】		
5	性別構成	すべて女性		
6	活動内容	・布絵本・布遊具の製作、お話会での実演をたけのこ文庫とコラボでしている。制作は月1回、定例会の後に行い、各自家に持ち帰り作業する。半年に1作品完成。 ・作成したものは、決まった団体に貸し出しもしている（いとキッズや子育てサークルなど） ・わいわいフェスタ、子どもフェスタなどでの実演もある。		
7	実績・評価	・制作物の数も増え、展示会できるほどにある。学校、サークルへの貸し出しを望む声はずっとあり、学校探検など、小学校のイベントで使われることも。地域の文化祭などに出すと、子どもが思った以上の反応を見せ喜んで遊ぶ。作品は自分たちにとって大切なもの、大切にしてくれるところへ貸したい。新聞の取材や研修の事例として紹介されたこともある。		
8	力を入れている事	・布絵本の製作は”本当に手作り?!”と驚かれる出来栄え。会員が活動するときのモチベーションにもなっている。高齢のボランティアでも活動しやすいよう、針通しを購入。参加することで自身の手指動かし、又、気持ちも和らぐため制作は続けたい。		
9	活動上の問題点及び課題	・作品の保管場所としての、将来的に公民館がなくなると困る。又、公民館にエレベーターがなく、高齢になると大変。保管場所を移すと、今度はそこまで通えない会員が出てくる。（家で作業多い）（仕事や家のことで忙しい会員多い）		
10	問題解決策	・校区の中で、佐世保市のスピカのような活動の拠点が必要。道具もあり、作業できて、作品の保管もできるような場所。		
11	将来像	・演じる為に作ったものではないからこそ、制作物は改良してオリジナルの布絵本等作りたい。そのために、借りた人の声を聴きたい。展示会もしてみたい。 ・人は今のまま、増えなくて大丈夫。製作も今のペースがよく、助成金（社協から）も足りている。		

団体等ヒアリングシート（我が事 丸ごと 地域共生社会づくり事業）

1	団体名	せんだん文庫		代表者	笠 靖子
2	種別	NPO・ボランティア団体			
3	活動分野	母子・子ども福祉			
4	会員数	会員数 【 13 名 】 常時 5 名			
5	性別構成	すべて女性			
6	活動内容	・公民館の図書館での本の貸し出し、本の読み聞かせ。 （毎週土曜 14 時～16 時…当番+α で 3～4 名）借りるのは、子どもも大人もだが子どもが来なくなった。（以前はひな祭り、豆まき、お楽しみ会） ・七夕会、クリスマス会等のイベント、6、12 月せんだん便りでメンバー募集、イベント告知、本は番号順に並び替える等定期的に整える。			
7	実績・評価	・年 2 回パピルスから 100 冊借りている。 ・長く続けている事、後から他の文庫も立ち上がった。			
8	力を入れている事	・新一年生へ、干支を入れた紹介カードを渡している。 ・パピルスから半年に 1 階借りてきて入れ替えている。（常時 100 冊完備） ・大人も新刊があり、図書館より使い勝手良いはずだと思う。 ・クリスマス会で、文庫に来てくれる子に、カードを作って渡している。 ・季節に合った部屋の飾りつけを行う。			
9	活動上の問題点及び課題	・代表を引き受けて長い、次の方がいない。（15～16 年活動）高齢化している。 ・週に 1～2 名の貸出しが減少している。学校の図書で間に合っているのか、何かクラブと重なっているのか。 ・公民館まで遠い子たちがあまり来ない。怡土小学校の子ども減っている。 ・車に乗れなくなると運営に支障出てくる。			
10	問題解決策	・本が好き！子どもが好き！という若い世代に入ってほしい。 ・回覧文（6・12 月）で募集。公民館だよりに載せている。			
11	将来像	・メンバーから引退の声も聞かれる。 ・いとキッズに来ている親子が、図書室にも来てくれるようになるといい。			

12	要望（行政・社協への要望について） （公的分野でどう団体支援をして欲しいか。なにか要望があれば忌憚なく言ってください）
	【行政】 ・必要な時だけ呼ばれて、応えても報われない。だから、全体的にボランティアは増えない（もっとボランティア団体に優しくしてほしい・職員さんと一緒に話をして反省会もしたい）。月 2 回の広報がカラー。運動公園の整備等 [いとしまの遊び場ったい！] ・図書館で大型図書の貸し出しの制限（市外活動に使用不可）がある。図書館と協議する場がほしい。（個人貸出禁止）1 冊のみ出してくるので部屋で見て選ばせてほしい。手に取って選びたい [朗読ボランティアあめんぼ] ・せせらぎの活動が有意義であると考えてくれるとありがたい [朗読ボランティアせせらぎ] ・健康づくり課の 1 年間の方針の説明と引き継ぎをしてもらいたい [ひまわりの会] ・トップダウンで啓発への取り組みを！日常生活の中でろう者が困ることが沢山ある。目で見える形で情報提供やバリアフリー等のハード面の整備を進めてほしい（駅のホームに表示なし、買いたいもの買えないというろう者の声が多）手話を付けているからそれで良いのではなく、あくまで双方向コミュニケーションであることへの理解。[糸島手話の会] ・存在できるようになるといいな。・講座が終わって、なぜ活動してもらえないのか？・できるけど、どうしてよいかわからない人が、どこかにいると思うが。「してやっている」ではなく自然体でできるものでありたい。[キューティスマイル] ・総合的な運動施設を作る [火よう会] ・交通問題、タクシー券、バス券の配布（可也にも移動手段がない人がいる）[ボランティアグループ志摩の輪] ・ボランティア養成講座をもっと有意義な講座に見直して市民が楽しめる講座を考えてほしい。若い人がボランティアに興味を持てるように。勉強のできる場を作してほしい [はつらつまスターズ] ・在宅での療養～看取りが可能であると市民に周知してもらうための PR 活動を。市民が 10 年後のわが身として考えられるよう育成し活動がなされるような支援を希望 [糸島在宅ホスピスボランティアの会ヴィオラ] ・空き家の調整をして、借りるのに優遇処置をしてほしい [ボランティアはるか] ・「ボランティアは無償奉仕」の風潮があるが、共助社会定着のためには有用な活動に資金を助成する仕組みが必要（ボランティア活動基金の創設）。糸島市ボランティア派遣事業は学校等へのゲストティーチャー派遣が対象だが、これを拡大してはどうか？ [おもちゃ病院] ・子育て支援の件で親の仕事の関係で送迎ができない場合、タクシー利用をお願いしていますが、行政がタクシー会社と提携するとか、何かしらの補助とかしてもらえないでしょうか？ちなみに、ジネスでは料金の 10%オフと 200 円の持ち出しサービスをしています、法人としてはとても大変です。[ジネスボランティア] ・ボランティア団体をまとめる機関が様々なので、仕組みが分かりにくい。活動も(イベント等)それぞれにあると負担が大きいためまとめて全体で流れがあると動きやすい [つみき文庫] ・作品の保管場所、活動拠点欲しい。[布絵本の会こびとのくつや] ・糸島市立図書館でのお話会に行くと、費用弁償はなし。館によって考えが違うが、他では出るところも。赤ちゃんのお話会は依頼があって行っているので出される。決まりが先に来るため不都合なこと多い。「ボランティアが勝手に来ているので場所提供している」といった返答が来るなどボランティア活動に理解がない。本を早めに借りて練習したくても、予約は 1 ヶ月前、借りるのも 2 週間前からしかできない。[たけのこ文庫] ・富山県射水市（？）では、博物館が貸し出して回想法に使える民具を持っている。北名古屋市では予算を設け、公的に回想法進めている（糸島市と同規模）。行政、社協どちらも金と知恵を出してほしい。回想法の実践の為には高齢者の感性に訴えて記憶を呼び起こすためにいろいろな小道具、パネル、資料が必要なので経費の援助。回想法の特殊性（活動に人数が多く必要）を理解していただき活動費（交通費）の支出基準の緩和をお願いしたい。人材育成は市や社協でやってほしい。需要はある。

	図書館での読み聞かせの費用弁償の件の話をしたら、お部屋は貸しているだけで依頼をして来ていただいているわけではないのでとの返事でした。[回想法ボランティアつんのーて] ・介助犬の啓発・子犬を預けるボランティアの募集の PR の場、助成金があるとありがたい。[認定NPO法人九州補助犬協会] ・今のまま、私たちの活動に対する理解と支援を継続していただきたい。担当者の異動などで、認識などが変わることがないようにしてもらいたい。[要約筆記の会いとしま]
--	--

12	要望（行政・社協への要望について） （公的分野でどう団体支援をして欲しいか。なにか要望があれば忌憚なく言ってください） 【社協】 ・ボラ連の部会活動が多いのではないかと（部会長の負担が大きい）。子ども部会内で役員をすることや、何度も研修(会員向け、市民向け)を行うことに負担を感じている [おもちゃ図書館いとし子] ・団体の活動以外の色々が減ったらいいかんと思う。[いとしまの遊び場ったい！] ・リスナー(視覚障がい者)が増えてない（身近でない読物の関係？）、リスナーに出会うチャンスがない [朗読ボランティアあめんぼ] ・予算助成金を増やしてほしい [福寿の会] ・日赤病院で月 1 回の活動は停止し、福岡県レクリエーション協会で福祉レクの勉強をしている。[いとまの会] ・イベントが多すぎる ・広報に、ボランティア団体を紹介するコーナーを作る [二丈菜の花会] ・福祉バスの借用・福祉バスが使えないのはなぜか [白菊学級] ・十二分に支援をいただいております感謝している [朗読ボランティアせせらぎ] ・まる投げではなく参加してほしい。でも、生きがいが有れば頑張れる ・二丈苑の使用の折、冷暖房費を負担している。活動費が欲しい [ひまわりの会] ・リクレーション道具を増やしてほしい [ボランティアはるか] ・ミニミニ教室をして欲しい（例：HP や関わる事が多い所、地域で）回数少なくてもよいので小さい単位で色々な場所で実施してほしい。二丈や志摩などでの開催 [糸島手話の会] ・活動場所の提供の継続・活動をもっと周知してほしい [火よう会] ・市や社協に講師をお願いしたい [はつらつマイスターズ] ・ボランティア講座が色々計画されているが、一度それぞれの関連を見直してプランを再検討してほしい。 活動に協力（支援）を続けてほしい（いつまで助成してくれるのかも心配） ケアマネージャーに家族への精神的な配慮としてヴィオラにつないでほしい [糸島在宅ホスピスボランティアの会ヴィオラ] ・助成金で本を購入している（公民館） ・会員拡大の研修をしてほしい（定期的な講座の開催） [ピュアの会] ・今まで通り支援をお願いしたいと思います ・ボランティアさんの車の免許を返納したら、サロン・イベントなど社協が車で送り迎えしてくれたらいいと思う。消耗品など 3 万の予算で足りている。[セラピューティックケアハーモニー] ・助成金あり助かっている。わいわいフェスタも活躍の場になっている [布絵本の会こびとのくつや] ・校区公民館が主体になり回想法の実践活動が行えるような体制作り。九大の講師を呼んでの研修をしてほしい。ボランティアを養成してほしい。[回想法ボランティアつんのーて] ・行政への要望へのお力添えをお願いします（ボランティア支援の庁内の一本化が望ましい。手当があると悪い気はしない） [おもちゃ病院伊都国] ・子犬を預けるボランティア募集を広報紙に載せて頂ければ [認定NPO法人九州補助犬協会] ・手話と要約筆記対応の必要性を、同等に考えて欲しい。以前、要約筆記の会いとしまが対応不可なら要約筆記は準備しない事があったため。 高齢者や障がい者とかかわる職員が多いと思うので、研修機会を積極的に作ってほしい 共通として：イベント時に、手話・要約筆記についての感想などの 1 項目を追加できないか [要約筆記の会いとしま]
----	---

13	地域共生社会について（知っていますか。目指していくために何が大切だと思いますか。など） ・障がいのあるなしにかかわらず、今日・今その子を大事に育てること、どんなことでも明日は良いことがあるかもしれないという気持ちを持ち、世の中が見守って行ける社会づくりが大切 [おもちゃ図書館いとし子] ・人への関心とボランティア精神、心の余裕が必要（人と人とのつながり、次へのステップへの繋がり）活動のきっかけが無いだけで、ボランティアの声掛けが必要（特にあごらトレーニングルームや囲碁をしている元気な 60～70 代に活躍してほしい。知恵を貸してほしい） [いとしまの遊び場ったい!] ・相手を知ること大切“障がいのある方を知る”。わいフェスの意義・防災運動会で交流。足を運ぶ場がたくさんあることを知らせる。障がい者の方が同じ立場で参加できる。 男性陣が生き生きと外で活動をしてくれれば、女性陣も更にボランティアや地域活動が活発になる。社協と地域で活動してきた取組を今度は地域住民を巻き込んでの活動。[朗読ボランティアあめんぼ] ・身近なつながり [福寿の会] ・親と子、祖父母と孫で催しに参加する。相手を理解して受け入れていくこと [つみき文庫] ・とても大事で大切な事である。自分たちの住んでいる糸島が一番大事、一番大雪。より良い住みたい町、住みやすい町であってほしい。会員さんが役に立ちたいという思いでやってくれている [朗読ボランティアせせらぎ] ・ボラ団体の互いの情報共有、連携し合えれば互いに理解し合う。ろう者も積極的に、当事者と支援者を分けるのではなく、一丸として（防災運動会の復活?） [二丈菜の花会] ・声掛け、世間話から声かけて情報を伝える。先入観があっても、他人を変えられないので自分を変えて繋がってみることも大事 [白菊学級] ・一人暮らしの人、入院している人、認知症の方、高齢者の方…助け合いが大事・向こう三軒が必要。病院も地域の方が知っていた方がよいが、本人、家族から発信してもらうと助かる。 新しい住宅地は活動がしにくい。心を開かない人が多い [ひまわりの会] ・糸島には外に出たくても出られない障がい者多く、一般住民は接する機会少ないと感じるのでは [糸島手話の会] ・できるようで、できないこと。ノーマルに、分け隔てなく広くやっていくことのみ。・うちのボランティアで、大きな課題に目を向ける、他に活動を広げる事は難しい [キューティースマイル] ・ボランティアだけに頼りすぎることなく、将来的な展望を見据えた地域福祉の形を明確にしてほしい。将来的な展望を見据えた目標設定などをしてほしい。[火よう会] ・近所とのコミュニケーション。あいさつが大事。お互いの立場を知ること [はつらつマスターズ] ・市民小地域の一人一人が「他人の為は自分の為」「明日は我が身」と気づいて、少しずつのおせっかいをためらわないですること。受け入れることができるような小地域になる [糸島在宅ホスピスボランティアの会ヴィオラ] ・お世話する側、される側に分かれてしまわない強みを活かしていく。習って自分もこうしたいというサロン（くぬぎ）もあり、そういう前向きな姿勢大切だ。自宅に近い活動場所があれば、車の運転ができなくなっても活動していける [ピュアの会] ・地域共生社会は、高齢者や障がい者のお世話を地域住民が担う社会と理解していますが、当団体が関わる余地はないと思っています。高齢者や障がい者のお世話を担う団体の創立が急務だが、介護事業者との棲み分けが課題になると思います。余談ですが、よく似た言葉に「共助社会づくり」があり、ボランティア団体が「共助社会づくり」に積極的に参画するような行政の方向付けが必要だと思います [おもちゃ病院伊都国] ・一般の人たちを対象とした啓発事業をすることで意識づけできるかもしれない ・地域で誰でも入っていいような場所づくり、公民館を開放してほしい [食育の会ホーレン草] 小規模デイみたいな所が欲しいが管理までは請け負えない（手伝ってと言われれば会員皆で出ます） ・外に出なかったら情報（移動販売など）が入ってこない。誰でも来て入れるスペース・公園・茶飲み処があればいい [ふる里] ・色々な立場の人を思いやれるような社会であることが大切だと思う。一般の人たちを対象とした啓発
----	---

	事業をすることで意識付けができるかもしれない [ジネスボランティア] ・関わりがない人は何も知らないので情報発信大事。(高齢者、ボランティア関係と離れている人) 仕事している人には伝わらない！ 口コミの力は大きい。配布物は小さい字だと読まないで、大きくパッと見て何のチラシかわかりやすく。[こびとのくつや・たけのこ文庫] ・それぞれの立場になって助けあえるところは助け合って行ける地域が必要。障がいがある所は他の人(犬)がフォローする。いつ支えられる立場になるかわからない。[認定NPO法人九州補助犬協会] ・それぞれにニーズを声に出せる環境を進めること。多様性を認めある意識を育てる研修機会を設ける事。「知る」ことが、運動を進める入口だと考えるので、その機会を作る事は重要。世代屋意識の差もあり、取り組みの結果の即効性は期待できないと思うが、繰り返していくしかないと思う。世代間を超えて地域でつながるような関係づくりが必要。若い世代に地域共生社会に対する理解を深める機会を持つこと。[要約筆記の会いとしま]
--	---

14	多様な団体同士の連携した取り組みについて （必要だと思いますか。連携するためには、どのようにしたら良いですか。） ・団体の活動でいっぱい、いっぱいなので、必要だとは思いますが現在はあまり考えられない [おもちゃ図書館いとし子] ・みんなで1つのことに取り組みお互いを知ることは良いと思う、必要と思う。会議の後、交流の場を開き、お茶菓子など話ができる場づくりをして欲しい。 学生ボランティアさんには手厚く援助を [いとしまの遊び場ったい!] ・わいわいフェスタ、子どもフェスタで道具の貸し借りをする関係・連携することで活動にも幅ができ、より豊かな内容を届けられると思う [つみき文庫] ・あかりの会さんと活動を一緒にしようかと考えたことがある開催日の折り合いをつけるのが難しい為開催できなかった。連絡取りづらい。[福寿の会] ・モチベーションを高める為に良いのではないかと思う（社協のイベント、交流会等のおぜん立てがなないと、どの団体が何をしているか知らないままなので交流の機会になる）[朗読ボランティアせせらぎ] ・ボラ連団体がまず互いの活動を知る。2〜3団体のこらぼなどと交流、情報交換したい。朗読ボラの読み聞かせと手話など、お互いに活動知れる。[糸島手話の会] ・情報を知らせて、地域行事に参加してもらう ・年に1回集まって報告会をする。校区ごと（団体の集まり）の話し合う場を作る [白菊学級] ・祭典（事務局は二丈におく）→ボランティアに目を向けてもらうような祭典を二丈地区で実施すると活性化する→つながりができる→連携ができる [ひまわりの会] ・ボラ連の交流会は、情報交換や相談などで必要。実際に顔を合わせる機会を増やす [火よう会] ・必要と思います。ボラ連の他の団体がどのような活動をしているか、代表者会の回数を増やしたり、各代表者が他の団体活動の見学に行く等。団体同士でお手伝い出来ることがあれば手助けしてもらおう。[はつらつまスターズ] ・他団体と交流を深める。まず、どこにどんな活動をしている団体があるのかを知って、協力し合えるところを探す。[糸島在宅ホスピスボランティアの会ヴィオラ] ・各々の団体がどのような活動をしているかわからない。連携するためには、団体を結びつける役割を行政などが入ってくれたらいいのではないかと思う [ジネスボランティア] ・現時点では特に必要性は感じない ・レクとセラピューティックケアとの連携 [ボランティアはるか] ・3団体セラピューティックケアは横の繋がりがある。わいフェスでハーモニーと知り合うきっかけになり、会員が重複して入って 5〜6 人の会員獲得。わいフェス等で横の繋がりがあったほうがよいので続けてほしい。[ピュアの会] ・連携する団体が、相互に win-win の関係にないと成り立ちませんが、その縁結びに行政の助言があれば成約が円滑に進むと思います。当団体の「かえっこことのコラボレーション」は、10 年前の前原市子どもフェスタで、別々の部屋で開催していた当団体の「おもちゃ病院」と糸島児童クラブの「かえっこ」が、コレボレーションのメリットに気付いたのが原点です。現在は「かえっこ」の団体がないので、当団体が自前で「かえっこ」もやっていますが「かえっこ」を開催する団体を育成してほしいものです [おもちゃ病院伊都国] ・ボランティアにボランティアが必要。若い人(大学生、高校生のボランティア)が求められているのでは？志摩にはボランティア団体が少ない [ボランティアグループ志摩の輪] ・ピュアの会と一緒に、わいフェスで体験コーナーを行う。活動自体は単独です。団体が多くなったので、交流が図れればよい。[セラピューティックケアハーモニー] ・ボラ連でイベントをする際、会員交流が出来てよい。他のボランティアと連携することが出来て知らなかった情報なども知れ、勉強になる。（特に子供のこと自閉症など）[食育の会ホーレン草] ・ボラ連同士ではあるが個別ではない。ろう者の高齢化は心配。[二丈菜の花会] ・(ボラ連) は部会が分かれてから皆が全体のことでお知らせを聞いたり、参加したりということなくなり他人事になった。忙しさから出ごとが増えると、これ以上はできないとも思う。文庫同士のつながりも減った。若いころは何ともなかったが、頭が切り替わらず大変だと感じるようになり、出ごと負担になってきた。読み聞かせしていた子どもたちが大人になっているはずだが、その子たちが活動に加わることもなく、若い世代はどんな活動をしているのだろう。[こびとのくつや・たけのこ文庫] ・(サロンボラの代表者会で) 他の団体は会員獲得のために研修しても人が集まらないと言っていた。関心のある事には人が集まる。ボランティアフェア、わいわいフェスタ、社会福祉大会などに参加することがきっかけにはなる [回想法ボランティアつんのて] ・負担に感じていることはない。行事やイベントで、もっと知っていただくことが出来れば。
----	--

	読書介助犬…読書の習慣をつける（じっとしていられない子）〔認定NPO法人九州補助犬協会〕 ・校区文化祭に、せんだん文庫のブースをもらい、活動内容や本などを展示した。絵本のもりもりで読み聞かせも。校区内での活動に限定。〔せんだん文庫〕 ・必要と思う。人集めが難しい所はあるが知り合う機会や学ぶ機会を作る。しかし団体によっては高齢化が進み活動に対する意欲・意識にも差があると思うので効果的な取り組み方法を見つけることは困難
--	---

15	市民活動・地域コミュニティの活性化について
	・来館者は近い所が多い。二丈、志摩からの来館者もあり保護者の情報交換ができる場になっている。[おもちゃ病院伊都国] ・土地柄なのか、みんな忙しいのか、なかなか前向きな活動の継続が難しいと思う。ボランティアさんをもっと大事にしたらいんじゃないかと思う [いとしまの遊び場ったい!] ・固定観念(年齢・性別)に縛られず、一步踏み出すきっかけと場と企画したい人を集める ・お話会の時、近所の親が子ども達を連れて来てくれる。炊き出しもしている。子ども会自体が活動しているか? [つみき文庫] ・自主防災等、有事の際に必要なものである。自治機能は低下しているのでは? 地域のまとまりは弱体化しているのではないか? 糸島も新しい住宅地が開かれ新しい街、新しい人が増える事でしょう。新、旧の住民が幸せに暮らせる環境を整えるのは、大事なことだと考えます。[せせらぎ] ・活動が手いっぱいなので考えられない [福寿の会] ・越してきた方に活動に入ってもらおう [いとの会] ・朗読講座…人の役に立ちたい・人の役に立てる自分が嬉しい。別の現場に出て行くような活動がない ・町おこし。農家→食堂を。子ども、高齢者が来れる場づくり [白菊学級] ・できれば二丈の方にもっと来てほしい (呼びかけ・周知) ・子ども中心に活動すると若い世代と関わりができるのでは。認知症カフェのサロン版 [ひまわりの会] ・仕事している人は、昼間の行事は参加できない。土日にしたら良い。[糸島手話の会] ・地域(校区、行政区単位)で研修や講習、啓発の講演、30~40代向けの講習などを行う [火よう会] ・夜に行ってはどうか? (地域支えあいサポーター講座) ・地域とのつながり、地域行事の活性化 ・積極的な人は一人で多方面に活躍しているけれど、裾野の広がりがなかなか難しい気がする 情報をわかりやすく繰り返し伝える。町内に気軽に人が集まれる場所があるとよい [はつらつマイスターズ] ・メンバー個人個人が地域でそれぞれの活動も行っている。[キューティスマイル] ・新しいボランティア団体ができる反面、行き詰まりを感じている団体も見受けられる。同じ目的であれば団体として認められる時点で協力し合って出来ないものかと思う。ボランティア養成講座の中でボランティアとしての共通認識が必要。個人個人の価値観が主で行っているのかな? [ヴィオラ] ・町内会で解決したい課題を挙げ、課題を考えて話し合う。コミュニケーションができる。楽しさ再発見自分たちで何かをしようと動かす力が必要 [ボランティアはるか] ・ボランティアが増えるには、若々しい高齢者が楽しそうと思えるものが必要、みんなが一度に揃わなくても繋がっている。来れない時はいいと言われるからほっとして活動できる、いつ来ても「久しぶり」と迎えてくれる。[ピュアの会] ・必要とする活動がない時や、あっても自発的活動が低調な時は行政の指導的介入が必要と思う。それ以前の課題として活動をリードする「コーディネーター」の育成や助成が重要だと思います [おもちゃ病院伊都国] ・活性化するには、自治体・社協などがきめ細かくかわからないと団体だけの力では無理だと思う。 企業が地域貢献の助成を受けて活動の糧にしたい。[ジネスボランティア] ・志摩の輪の活動は楽しい、よかったと言われることは多い。これをもっと地域の人に伝えていきたいそうすれば会員も増えるのでは。[ボランティア志摩の輪] ・役を持っている人がすべてをするのは難しい。皆で回して当番制にする [食育の会ホーレン草] ・お年寄りの方の足がない。日常の買い物が不便 (隣近所で頼める人がいればいい) [ふる里] ・特になし、地域はお互いで助け合いをするというのが当たり前になる。地域性による。井田原の老人クラブはサロンになっている。仕事をしていない人は老人クラブに行きにくい。[セラピューティックケアハーモニー] ・高齢者は若い人の仕事取れないとの思いもある。餅つき等すると沢山参加するのに。地域にはリタイアした人が沢山いるのに活動する人は少ないのはもったいない。自分たちは若いころからずっと活動してき

て、楽しくて、ここが居場所。若い人は関心がある事しか見ない環境に置かれてきて、自分で知りたいことだけを調べ、自分の視野でのみ見て選択する。広報や辞書のように、興味なくても目に入ってきたことから次に繋がる事も必要。興味がないとシャッターを下してしまうのは余裕のなさの表れ？役はしたくない、継続して拘束されるのはイヤという考えもそこからでは。[たけのこ文庫・こびとのくつや]

- ・自身のスキルアップへの関心はあるが、他人の為に無償で活動しようという人は少ない。しかし、活動しようという人は少ない。しかし、活動する人が、増えてこないニーズに応えられない。関心のある人によっては、ボランティアのレベルを超えたものを求めている人もいるのでは、そういう人にはより専門的な内容での研修を受けてもらい、自分たちはボランティアとしてできることを。

回想ボランティア活動の中で感じたこと。地域の集会所、世話役の方が大きな役割を果たしていると思います [回想法ボランティアつんの一て]

- ・糸島市内であるイベントがすぐわかるような SNS が出来れば、それぞれの団体ごとの活動が分かるようにする。九大生など、もっと若い世代の方も参加しやすくなるのではないかな。[認定NPO法人九州補助犬協会]
- ・どの団体も自分たちの取り組みで精一杯の状態もある。団体からの声を吸い上げると同時にトップダウンによる誘導も必要だと思う [要約筆記]